建設経済常任委員会

令和6年3月12日（火曜日）

建設経済常任委員会

令和6年3月12日（火曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1 号 令和6年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について
- 議案第 6 号 令和6年度旭市水道事業会計予算の議決について
- 議案第 7 号 令和6年度旭市公共下水道事業会計予算の議決について
- 議案第 8 号 令和6年度旭市農業集落排水事業会計予算の議決について
- 議案第 9 号 令和5年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について
- 議案第22号 旭市企業誘致及び雇用の促進に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第23号 旭市空家等の適切な管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第24号 旭市立公園条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第25号 旭市公営企業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第29号 市道路線の認定及び変更について

出席委員（6名）

委員長	片 桐 文 夫	副委員長	永 井 孝 佳
委員	向 後 悦 世	委員	宮 澤 芳 雄
委員	井 田 孝	委員	戸 村 ひとみ

欠席委員（なし）

委員外出席者（5名）

議長	飯 嶋 正 利	議員	松 木 源太郎
議員	伊 場 哲 也	議員	伊 藤 春 美

議 員 常世田 正 樹

説明のため出席した者（14名）

副市長	飯 島 茂	商工観光課長	大八木 利 武
農水産課長	池 田 勝 紀	建設課長	齊 藤 孝 一
都市整備課長	飯 島 和 則	上下水道課長	多 田 一 徳
農業委員会 事務局長	戸 1 正 和		
その他担当 職員	7名		

事務局職員出席者

事務局長	穴 澤 昭 和	事務局次長	金 谷 健 二
副主幹	菅 晃		

開会 午前10時 0分

○委員長（片桐文夫） おはようございます。

大変お忙しい中、ご苦勞さまでございます。

本委員会に付託されました議案は 10 議案。私の進行、まだ不慣れなため、皆様方のご協力を得てスムーズな進行をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ただいまの出席委員は 6 名、委員会は成立いたしました。

それでは、建設経済常任委員会を開会いたします。

なお、松木源太郎議員、伊場哲也議員、伊藤春美議員、常世田正樹議員より、本委員会を傍聴したい旨の申出があり、これを許可いたしましたので、ご了解をお願いいたします。

本日、お忙しい中、飯嶋議長にご出席をいただいておりますので、ご挨拶をお願いいたします。

○議長（飯嶋正利） おはようございます。

委員の皆様、大変ご苦勞さまでございます。

本日は、付託いたしました 10 議案について審査をしていただくことになっております。どうぞ慎重なるご審議をお願いいたしまして、簡単ではございますが、ご挨拶に代えさせていただきます。

それでは、片桐委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長（片桐文夫） ありがとうございます。

議案等説明のため、副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、飯島副市長よりご挨拶をお願いいたします。

○副市長（飯島 茂） それでは、改めましておはようございます。

本日は、建設経済常任委員会の開催、大変お疲れさまでございます。

本日の委員会に審査をお願いいたします議案は、全部で 10 議案でございます。その内訳でございますが、まず、予算関係が 5 議案で、議案第 1 号、令和 6 年度旭市一般会計予算の議決についてのうち建設経済常任委員会の所管事項、議案第 6 号、令和 6 年度旭市水道事業会計予算の議決について、議案第 7 号、令和 6 年度旭市公共下水道事業会計予算の議決について、議案第 8 号、令和 6 年度旭市農業集落排水事業会計予算の議決について、議案第 9 号、令和 5 年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち建設経済常任委員会の所管事項、次

に、条例関係が4議案で、議案第22号、旭市企業誘致及び雇用の促進に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第23号、旭市空家等の適切な管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第24号、旭市立公園条例の一部を改正する条例の制定について、議案第25号、旭市公営企業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、その他の議案が1議案で、議案第29号、市道路線の認定及び変更についてでございます。

執行部といたしましては、委員の皆様方からの質疑に対し、簡潔明瞭に答弁するよう努めてまいりますので、何とぞ全議案可決くださいますようお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしく願いをいたします。

○委員長（片桐文夫） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（片桐文夫） 本来であれば、ここで私も議案を一つ一つ読み上げるところですけども、今、副市長のほうより丁寧に説明していただきましたので、これから、本委員会に付託されました10議案について審査を行います。

初めに、議案第1号、所管事項について補足説明がありましたらお願いいたします。

説明、質疑については着座で結構です。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） それでは、議案第1号、令和6年度旭市一般会計予算の議決について、商工観光課所管の補足説明を申し上げます。

予算書の188ページをお願いいたします。タブレットにつきましても同様、188ページとなります。

中ほど、3目観光費のうち、説明欄3、観光施設管理費1億30万5,000円について、幾つか大きな工事を予定しておりますので、説明をさせていただきます。

予算書の190ページをお願いいたします。タブレットも同じく190ページになります。

上段、14節工事請負費として3,681万7,000円でございます。主なものといたしましては、

観光施設改修工事として、市営海浜プールのプールサイドの塗装等の改修工事、長熊釣堀センターの管理棟トイレの洋式化と浄化槽設置工事。このほか、令和5年度から2か年で計画しております、観光遊歩道の安全施設設置工事などがございます。

安全で衛生的なふれあいの場を提供できるよう、観光施設の維持管理に努め、観光客の利便を図るために行うものでございます。

以上で商工観光課所管の補足説明を終わります。

○委員長（片桐文夫） 建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 議案第1号、令和6年度旭市一般会計予算の議決について、建設課所管の補足説明を申し上げます。

なお、全員協議会並びに議案質疑で説明できなかった事業のうち、主なものをご説明いたします。

タブレット及び予算書の196ページをお開きください。

中ほどになります。説明欄1、道路維持管理費、次のページの12節、委託料の道路排水路等清掃委託料2,145万円は、排水路の浚渫のほか、道路等の草刈りや樹木の伐採及び剪定などの維持管理における委託料を計上したものです。

15節原材料費1,100万円は、道路等の維持補修に必要な再生路盤材や常温合材、側溝の機能維持のために使用するグレーチングの蓋やコンクリートの蓋などの材料費を計上したものです。

続きまして、一番下になりますが、説明欄2の道路維持補修事業の次のページ、198ページ上部の14節になります。工事請負費の道路舗装改修工事2億4,998万1,000円は、老朽化した舗装の打ち替え等の14路線分と、緊急対応に要する工事費を計上したものです。

次に、その下、説明欄3、交通安全施設維持補修事業の14節工事請負費の交通安全施設整備工事1,998万7,000円は、転落防止柵の整備のほか、区画線、路面標示などを施工するものでございます。

続きまして、199ページ中段の説明欄2の道路新設改良事業の14節になります。工事請負費の道路改良工事2億3,753万8,000円は、道路及び歩道部の拡張等7路線分、道路排水工事8,454万8,000円は、排水不良箇所に排水施設を整備する5路線分、道路舗装工事1,118万円は、舗装新設に要する工事費を計上したものです。

次に、少し飛びまして、202ページをご覧ください。

中ほどになります。説明欄1、橋梁長寿命化修繕事業の12節委託料の調査・設計委託料

3,200万円は、橋梁の定期点検を予定しております74橋分の点検業務を委託するものです。

次に、14節工事請負の橋梁改修工事5,017万5,000円は、橋梁修繕計画に基づき、修繕が必要な橋梁3橋の工事費を計上したものです。

以上で議案第1号、建設課所管の補足説明を終わります。

○委員長（片桐文夫） 担当課の説明は終わりました。

議案第1号について質疑がありましたらお願いいたします。

宮澤委員。

○委員（宮澤芳雄） それでは、何点かお尋ねします。

予算書184ページの4の商業活性化推進事業の18番、空き店舗活用事業補助金について、その空き店舗の地域と対象となる店舗数をお尋ねします。

それと、同じ項なんですけれども、商店街等活性化事業補助金の商店街等の「等」とは何を指すのかお尋ねします。

もう一点、185ページの6旭市特産品開発事業。この特産品開発事業補助金の内容と対象者数をお聞きします。

○委員長（片桐文夫） 宮澤委員の質疑に対し答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） それでは、宮澤委員の質疑にお答えいたします。

まず、空き店舗活用事業補助金の対象地域と店舗数でございますが、対象地域につきましては市内全域となっております。

また、店舗数でございますが、こちらは、過去に商業、または事務所、事業所として使われていた建物で、3か月以上、事業が行われていない建物ということでございまして、実際のところ、実数の把握は困難なところでございます。うちとしても、物件紹介ということも行ってはおりません。

申請される方は、まず商工会へ加入することが条件になるんですけれども、申請に至るまでは、例えば商工観光課への相談等の中でアドバイス、サポート、また商工会でのサポートを受けながら、自ら希望物件を見つけてから申請という形を取っております。

続きまして、商店街等活性化事業補助金の「等」ということでございます。こちらでございますが、補助金の要綱の中で対象というところで、いわゆる商店会であるとか通り会といった、面的に広がる商店街というのがメインになるんですけれども、そのほかに、例えば旭市の専門店会のように、一つの目的によって任意のお店が加盟しているような、面的なもので

はなくて、任意で商店会のように加盟しているような団体も対象にしているというところで、そういうのを含めて「等」というのもございますし、要綱上、商工会法に基づく商工会についても対象になっているというところから、「等」という形を取っているところでございます。

あと、特産品開発事業でございます。こちらは、市の新しい魅力を発信するために、市にふさわしい特産品の開発・改良を行う事業者に対して、事業費の一部を支援するものでございます。補助率につきましては、対象経費の2分の1以内で、限度額が50万円となっております。新しい特産品を開発するに当たってのプロセスを踏んでいく場合もありますので、最長で3会計年度まで申請が可能というふうになっております。

対象につきましては、特にこういう方々というところはございません。市内に事業所を有する法人であったり、市内に事業所を有する方により組織する団体ということで、特段、対象者数が何人というところはございません。

以上でございます。

○委員長（片桐文夫） 今現在の対象者数は分かりますよね。

○商工観光課長（大八木利武） 対象者数って、今年度申請した方ということでよろしいでしょうか。

失礼しました。今年度の申請は1件でございました。

○委員長（片桐文夫） その品目とかその商品のあれはいいですか。

宮澤委員。

○委員（宮澤芳雄） 再質疑します。

最初の空き店舗の対象数、空き店舗の地域と対象となる店舗数のところで、その店舗、おおむねでいいですけれども、だいたいあと何年くらい使えるんでしょうかというところは把握していますかということをまず1点お聞きします。

それと、2項目めの「等」は了解しました。

6の特産品の件なんですけれども、まちづくり支援事業でも交付金というんでしょうか、補助金を出していると思うんですけれども、同じ方が両方から申請して受け取ることは可能なんでしょうか。この2点、再質疑します。

○委員長（片桐文夫） 宮澤委員の再質疑に対し答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 今後何年ぐらい利用可能かというところで、そのお店の建物自

体ということでよろしいでしょうか。それに関して、特段の定めはございません。

それと、お店のことはあれなんですけれども、取りあえず補助事業をいただいた方については、3年以上、その事業を必ず継続して行うというのが一つ条件でございます。回答しておりませんでした。失礼いたしました。

あと、まちづくり支援事業、これは旭市市民まちづくり活動支援事業のことでよろしいでしょうか。

(発言する人あり)

○商工観光課長（大八木利武） まちづくり活動支援事業の補助金要綱で、同一事業について、市の財源による他の補助金を受けていないことというふうに規定をされているというところで、基本的にはそのダブリはないというふうに認識しております。

○委員長（片桐文夫） 宮澤委員。

○委員（宮澤芳雄） 一つ目の質疑を何でしたかという、人口減少がこれから進むと、大型店というのは、この近隣の地域を見てもそうですけれども、人口が減ると、もういち早く撤退してしまうんですね。いずれは、買物難民を救うのは、やはり個人の商店が中心になっていく、また元に戻ると思うんです。ですからそういった意味で、こういう空き店舗等をそのまま更地にしないで、継続して何かしらの形で残していかないと困るのではないかなという意味で質疑しました。そういったこともちょっと私から提案させていただきますので、よろしくをお願いします。

次の質疑だったんですけれども、まちづくり活動支援事業も非常に優れた事業活動で、私も委員やっていたのでよく分かるんですけれども、本当に素晴らしい。これ、有利なほうを選択する。期間ですね。これに手を挙げる期間というのはダブらないんでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 宮澤委員の質疑に対し答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 私どものほうの特産品開発事業補助金については、年度初めのほうにもう募集をかけて、申請があれば、そこで審査会を開いて決定をするというところがございますので、市民まちづくり活動支援とは若干、目的を異にするかなというところがございます。こちらはまちづくりのための活動ということ、我々のほうは特産品を開発するというところに特化しておりますので、そういったところでダブリはないかなというふうに考えております。

○委員長（片桐文夫） 1番目の提案についてはいいですか。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） すみません。それでは、先ほど、空き店舗活用事業の関係ございました。こちらについては、もちろん創業者、起業者ということで新しく、そういった空いている店舗を使って小さなお店であっても開いていこうという方々を支援するものでございまして、あらかじめ商工会に入ることが一つの条件になっておりますので、もちろん商工会の中で経営支援というのもやっていきます。ということで、長続きしていくように、市としてもこういったお店の方々を今後も支援していきたいと思っております。これは空き店舗に限らず、様々な補助とか融資とかというのもPRしながら、長続きするように努力していきたいというふうに思っております。よろしくお願ひします。

○委員長（片桐文夫） 宮澤委員。

○委員（宮澤芳雄） 本当によろしくお願ひします。

実は、昔は商店、うちもお店をやっていたんですけども、みんな元気があったんです。でも、だんだん、大型店の進出で買物の形態も変わってきたというか、だんだん利用者数が少なくなってきて辞めていくんですけども、私、議員になったら、こういう質問が幾つかあったんです。もうお店は維持できないんで、辞めるときに、それに対して、閉店するときのための補助金というのはないですか。それはないと言った。そういう寂しい話が実はもう以前の経営者、私と同世代くらいの人なんですけれども。だから、次の世代の人たちが何か夢があるような。今現状では無理だと思うんですけども、将来的にそういったところもしっかり守っていつて続けてもらいたい。そういった意味の質疑でした。ありがとうございました。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑はありませんか。

井田委員。

○委員（井田 孝） これは款ごとではなくて、一遍に全部やってしまうんですか。1号議案は。

○委員長（片桐文夫） 一括で。

○委員（井田 孝） まず、6款農林水産業費から、予算書173ページ、説明欄8の耕作放棄地再生事業なんですけど、来年度90万円で、令和5年度は200万円だったんですけど、その減額の理由を。

（「令和何年度」の声あり）

○委員（井田 孝） 5年度は200万円だったんですけど、その減額の理由を教えてください。3項水産業費、177ページ、説明欄3の漁業近代化資金利子補給補助金。近代化というのに

該当する項目を教えてください。

178 ページ、説明欄 6、漁業振興基金積立金 2,000 万円。去年も同額だったんですが、この目的と現在の残高を教えてくださいと思います。

○委員長（片桐文夫） 井田委員、タブレットのページは分らないですか。

○委員（井田 孝） タブレットは 179 ページか。

あと、7 款商工費にいきまして、予算書 184 ページ、説明欄 4 の商店街振興事業補助金。これはたしかプレミアム商品券の話だったと思うんですが、今年度はなしということによろしいのでしょうか。

あと、189 ページ、公園維持管理委託料 669 万 2,000 円で、商工観光課が管理している公園を教えてくださいと思います。

続いて、8 款土木費、198 ページ、先ほど補足説明いただいた内容なんですが、説明欄 12 の委託料と 14 の工事請負費。この委託料と請負の違いが分かれば教えてくださいと思います。

続いて、202 ページ、説明欄 1 の橋梁改修工事。これは議案のときに説明いただいたんですが、新川の仮設費が大きくなるということでこれだけの工事費かかるということだったんですが、この金額に対しての積算根拠は数社から見積りを取っているのか教えてくださいと思います。

あと、203 ページ、都市計画費の都市計画見直し支援業務委託料で 2,874 万 9,000 円。令和 6 年度の事業の内容をいま一度説明していただきたいと思います。

最後に、209 ページ、住宅管理費、説明欄 4 の市営住宅改修工事。これは外壁、防水、給排水設備の改修というお話を伺ったんですが、双葉団地が竣工何年たっているのか。あと、改修工事終了後は、あと何年ぐらい使用する予定でいるのかをお聞きしたいと思います。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） それでは、井田委員のご質疑、農水の関係は三つあったと思います。

耕作放棄地の予算なんですが、173 ページでよかったですよね。去年は 200 万円ということで、一応 200 ヘクタールを目標ということで予算化していたんですけども、過去の実績等を勘案した結果、そこまではなかなか進まないなど。前段で県事業を継承しているやつなんですけれども、県の事業が 3 年度で終わって、継承として市単独でやっているんですけど

も、いろいろアナウンスはしているんですけどもちょっと伸び悩んでいるということで、今年度は 90 ヘクタールということで、予算はその金額に変えさせていただいたということです。

177 ページの漁業近代化資金の近代化がどういうところというのはちょっと分からないんですけども、東日本の信漁連とか。普通の一般の農家だと農協とかのところで融資を受けるんですけども、漁業者の場合は信漁連のほうの融資を近代化というところで受けるということになっています。

今年度は、一応今、近代化としては、レーダー探知機だとかエンジンの改装とか、そういったものに活用するという要望が上がっている状況です。

それから、178 ページの 2,000 万円。これは銚子市の洋上風力の関係で、銚子沖の関係、漁業団体に出捐金ということで示されているものです。これにつきましては 2,000 万円という金額なんですけど、令和 4 年から令和 29 年まで 26 年間、出捐金がそれぞれ年度ごとに来るということで、令和 4 年から令和 6 年までは 2,000 万円が交付されます。令和 7 年度で一旦 6,000 万円ということなんですけど、それ以降、令和 8 年から終わりの 29 年まではそれぞれ 4,000 万円ずつ来るということで。

基本的には洋上風力、銚子沖の関係で来る出捐金なので、漁業者の漁業振興というところで活用を図ってほしいということになっております。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 商工観光課からは、184 ページの商業振興のほうを初めにお答えをいたします。

商業活性化推進事業の中の商店街振興事業補助金なんですけれども、6 年度につきましては、プレミアム付共通商品券の発行は行いません。今般、企画政策課の補正予算のほうで上程させていただいております重点支援地方交付金を使いましての物価高騰対策家計応援商品券配付事業、こちらのほうに今回は振替といいますか、代わりにそちらを行うというところがございます、プレミアムにつきましては今回実施をしないというところがございます。

続いて、189 ページ、こちらの公園維持管理委託料でございますが、場所につきましては、長熊釣堀センター及びその隣のスポーツ公園、こちらのほうの樹木だったり草の草刈りであったり、そういったところと、あともう 1 か所が上永井公園の管理になります。

以上でございます。

○委員長（片桐文夫） 建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 建設課からは、198 ページ、12 委託料と工事請負費の違いということで最初にお答えいたします。

12 の委託料につきましては、市内全域を対象とし、年間を通じて道路等の修繕を行い、維持管理を実施していくための業務委託で、職員が対応できない緊急性の高い応急の案件や軽微な補修現場に対応する委託料でございます。

14 節の工事請負費は、舗装工事、打ち直し等の維持補修工事の金額でございます。

続きまして、202 ページ、橋梁維持費、橋梁長寿命化修繕事業で、工事費の関係です。金額は見積りを徴取したかどうかというようなお話でしたが、その橋梁につきましては、今年度に設計業務を委託しております。

以上になります。

（発言する人あり）

○建設課長（齊藤孝一） 今年度、設計業務を委託しておいて、来年度に工事をするということで。

以上になります。

（発言する人あり）

○建設課長（齊藤孝一） すみません。令和5年度に設計業務を委託しまして、令和6年度に工事をするということになります。

以上になります。

○委員長（片桐文夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） それでは、まず、予算書 203 ページ、都市計画見直し支援業務委託料、こちらの令和6年度の事業内容についてお答えいたします。

こちらについては、令和4年、5年、6年、継続で事業をやっておりますので、年度ごとに業務がはっきり決まっているわけではないんですが、主な業務といたしましては指定道路調査でございます。こちらは、建築基準法第42条に係る道路の調査でございます。こちらが主なもので、あわせて、国・県との協議を始めますので、法定協議用の図書作成、それとあわせて、千葉県が行っているマスタープラン、県のマスタープランの都市計画区域マスタープラン、旭市ですね、そちらの原案をつくり始めていくところでございます。

それと、予算書 209 ページ、市営住宅改修事業の市営住宅改修工事。双葉団地Aの改修工事なんですが、こちらについては、建築が1978年度ですから築45年経過しております。今後、公共施設の管理計画の個別施設計画、こちらでは、令和2年度時点で今後30年、維持管理を

行うとされております。ですから、今の時点にしますと、残り 27 年は継続して維持管理を行っていき施設でございます。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） すみません。私のほうで先ほど、耕作放棄地の面積、単位を間違えてしまいました。すみません。200 ヘクタールではなくて 200 アール、それから 90 アールに変わったということで、去年から今年の差というのはそこからということです。

（「200 アールから」の声あり）

○農水産課長（池田勝紀） 90 アール。さっきヘクタールって言ってしまった。とんでもない面積言ってしまったんで、申し訳ございません。

○委員長（片桐文夫） 井田委員。

○委員（井田 孝） 続けてやって分かんなくなってしまったんですけども、再質疑が。

では、土木費だけ再質疑させていただきます。

先ほどの道路維持費、委託料と請負費は分かったんですが、委託料に関しては年間の補修ということで、年初めに一つの業者を入札か何かで絞るんでしょうか。

それとあと、橋梁維持費、今年度設計が終わって、予算金額で出て来年工事という話だと思っておりますが、現在の資材の高騰とか、そういうのは積算には見込んであるのかお聞きしたいのと、同様に、さっきの双葉団地の工事費も、これの積算根拠と、これに対する資材高騰とこのを見込んでいるのかをお聞きしたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 委託料のほうは、年間で1業者でございます。

（発言する人あり）

○建設課長（齊藤孝一） 入札です。

積算の根拠なんですけれども、一応、国の積算基準に準拠しておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） それでは、市営住宅改修事業の双葉団地Aの改修工事の積算根拠でございます。

こちら、専用の積算システムを用いまして、県の単価及び見積りから積算してございます。

それで、資材高騰を加味しているかということなんですが、はっきり何%とは言えませんが、県単価、見積り等を使っておりますので、その中に含まれているのではないかなという解釈はしてございます。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 井田委員。

○委員（井田 孝） すみません、都市計画見直し事業なんですけど、先ほど、令和6年度、国・県との協議が始まるということだったんですけども、都市計画に対して多少要望等があるんですけども、国・県の協議が始まっても、多少変えろとかそういうことはできるんでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対し答弁を求めます。

都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） 協議が始まる段階でございます。令和6年度末、7年度にかけて原案の作成に入っていきますので、修正の余地はもちろんございます。ただ、大幅なとか、内容によっては難しいものもございます。今回の見直しでできるできないがございまして。ただ、協議が始まるということですので、内容によっては検討する可能性もございます。

以上です。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑ありますか。

永井委員。

○委員（永井孝佳） 項目がちょっと多いので簡単でいいので、ご回答をお願いいたします。

まず、167 ページの水田農業構造改革推進事業、こちらの内容と目的を教えてください。

続きまして、予算書の 173 ページですね。多面的機能発揮促進事業、こちらの内容と目的をお願いいたします。

続きまして、予算書の 191 ページ、海水浴関係が書いてあるんですけども、今年は海開きできそうかどうかというのをちょっとお伺いしたいと思います。その場合は萩園海岸で行うかどうか。そちらの開設ができるかどうかをお伺いいたします。

続きまして、200 ページから工事がいろいろあるんですけども……。

すみません、その前に 198 ページをお願いいたします。

198 ページから道路の舗装とか道路の新設とか冠水対策とかあるんですけども、こちらのやるやらないの基準とか、あと優先順位、どうやってここをやるとか、そういう決まりとかがありましたら教えてください。

続きまして 200 ページ、こちらの三川蛇園線とか南堀内バイパス、あとは飯岡の津波避難道路、こちらの見通し、もし分かっていたら教えてください。

その次は 211 ページ、住宅リフォーム補助事業ですけれども、こちらの件数と目的を教えてください。

同じく 211 ページに空き家のほうの計画策定の予算があると思うんですけれども、どのような計画策定を依頼するのかを教えてください。

以上です。よろしくお願いいたします。

○委員長（片桐文夫） 永井委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） それでは、農水産課からは、予算書のページ 167 の水田農業の関係と……

○委員長（片桐文夫） 課長、申し訳ありません。予算書とタブレットのページ数も言っていたければ。

○農水産課長（池田勝紀） すみません。タブレット開いてなくて、申し訳ないです。

○委員長（片桐文夫） 委員の方々、みんなタブレット使っていますので、タブレットの。紙ベース、何ページって言ったっけ。

（発言する人あり）

○委員長（片桐文夫） 168 ページでいいのかな。

○農水産課長（池田勝紀） タブレットのほうが、水田農業が 168 ページですか、水田農業構造改革推進事業のご質疑です。

この内容なんですけれども、これはもともと国がずっと進めていた生産調整の絡みの継承事業でありまして、今、生産調整の制度としては、国としてはもう終わっているんですけれども、かといって、まだ米価の安定というのは、皆さんが大いにお米を作ってしまうと米価が下がってしまうというところで、それぞれ国・県である程度の目標を決めて、この自治体は今年はこのぐらいのお米の生産量に下さいよというような指示とかあれが出ているんですけれども、そうすると、要はつくらない部分で所得が発生しなくなってしまうというところで、皆さん転作というところでいろいろほかの作物をつくっているという中で、旭市につきましては強湿田地帯ということなので、飼料用米、要は畜産のえさにするための転作ということで、飼料用米ということを推進しています。その飼料用米等、一部、麦をやっている方もいらっしゃるし、転作の補助金助成ということで、事業として行っているもので

ございます。

それから、173 ページで、タブレットが 174 ページ、多面的機能発揮促進事業ですが、こちらは、農業者もかなり高齢化、それから減少しているという中で、担い手がどんどん減っているという中で、市内の農地とかという部分で、昔はたくさん農家がいたので、頭数があった、それぞれ農地を守ったりできていたんですけども、国がどんどん担い手のほうに集積しているというところで頭数も減ってきているという中で、それと水田地帯の景観だとか、そういった様々な水田の持っている機能発揮がなかなか難しいというところで、国のほうで農業施設の地域資源を保全するための共同活動、これを促進したりとかっていうところで、農家、自治会、子ども会などで構成する活動組織を立ち上げていただいて、それで水路の管理だとか草刈りとかを行っていただくという団体、それに対して支援をしていくという事業になります。今現在、旭市内では 16 団体、活動団体がございます。

そういったところでこれからも、それ全域、市内カバーできているわけではないので、市としていたしましてもいろいろなアナウンスをしながら、その活動団体を増やしていければと考えています。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 商工観光課からは、海水浴場開設事業というところで、予算書、タブレットともに 191 ページになります。

委員ご質疑の海開きできそうかというところでございますが、6 年度も、今のところは矢指ヶ浦海水浴場 1 か所のみということで、飯岡海水浴場につきましては、委員もご承知かと思いますが、砂浜が消波ブロックまでもう広がってしまっているという現状で、その向こう側に行かないともう水がないという。引き潮になると、消波ブロックの向こうに行かないと水がないというような状況になって、安全の確保ができないという観点から、残念ではありますけれども、飯岡海水浴場については、現状では開設はできないというふうに考えております。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 道路改良費のほうのやるやらないというようなご質疑だったと思います。

道路改良事業、たくさんの事業数あるんですけども、大きいほうで言いますと、飯岡海上

連絡道と南堀之内バイパス事業等は、合併時の新市建設計画にのっとして現在事業をしているところです。また、津波避難道路2本については、復興計画に基づいて事業を実施しているところです。あと、冠水対策等になりますと、やはり冠水がひどいところにつきまして、事業に着手しているところでございます。

あと、新設改良事業費のほうは、現在、主なものとしまして農高南側の歩道新設、改良工事等をやっております。その他細かいものにつきましては、重要な路線と思われるところ、区の要望等、実施している、計画しているところでございます。

以上になります。

○委員長（片桐文夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） それでは、予算書、タブレット 211 ページの住宅リフォーム補助事業、こちらについて、まず件数ですか、予算 2,500 万円の内訳なんですが、実施予定件数として 125 件、平均して 20 万円ということで予算は見積もってございます。毎年 110 件から 130 件くらいの申請がございまして、工事内容については、大きいものから小さいものありますので一様ではないんですが、こういった見積り。見積りについては 125 件、個々 20 万円ということで出しております。

それと、同じ 211 ページの空き家等対策推進事業の計画策定支援業務委託料でございます。こちらは、本年度実施中の空き家の実態調査の結果の反映もあるんですが、現在の計画が令和 6 年度まででございます。それを踏まえまして、本年度実施している空き家の実態調査の結果と、令和 7 年度からの新規計画というか、計画の更新を目指して作成するものでございます。

具体的な内容といたしましては、まず計画の中身といたしまして、空き家の施策の実施状況の確認をいたします。これは今の現状の施策でございます。それと、上位計画や関係法令の確認も行います。そういったのを行った中で、空き家の現状の分析。これは、本年度実施している空き家の実態調査の結果を反映して課題を検討いたします。それを踏まえまして基本方針、具体的施策を検討いたしまして、空き家対策の実施体制の検討も行います。

大きな理由といたしまして、特措法の改正で、いろいろ市町村のやるべきことというか、市町村の責務がだいぶ大きくなってまいりまして、様々な行政手続き、そういったものが複雑になっておりまして、新たにこの機会に計画を策定いたしまして、今後に備えるという目的でございます。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） すみません、答弁漏れがありました。すみませんでした。

津波避難道路の横根三川線の進捗状況ということでした。

横根三川線は、一宮線から片貝線までは用地取得が難航してしまっていて、まだ用地の見込みが立っていないんですけれども、県道片貝線から国道126号線までは、用地は全て取得済みでございます。あと、工事のほうは若干、電柱等の移設で遅れまして、令和6年度に、片貝線から126号線まで供用開始したいなと考えております。

以上になります。

○委員長（片桐文夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） 失礼いたしました。答弁漏れが一つございました。

211ページのリフォーム補助事業の目的、こちら答弁漏れでございました。

目的といたしましては、この事業を実施することに伴いまして、居住環境の向上、こちらは当然でございますとともに、地域経済の活性化対策として実施しているものでございます。

国の補助もございますので、積極的に事業実施している状態でございます。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 永井委員。

○委員（永井孝佳） 何点か再質疑させていただきます。

水田農業構造改革推進事業の財源の割合を教えてください。もう全部、一般財源なんですかね。後で回答をお願いします。

あとは、同じく多面的機能発揮促進事業8,395万円の財源割合。割合というか、国から幾らとか県から幾らとか、もし分かれば教えてください。

あと、海開きのほうなんですけれども、宿泊業者からパンフレットとかに飯岡地区海開きなしとなると、お客さんがかなり減るという意見をいただいております。ほかの地域に海開きできないか、その可能性をちょっとお聞きしたいです。予算にはそういうものは含まれていないんですかね。矢指地域だけの予算になっているのか。それとも、飯岡地区も含めての予算になっているのか。萩園以外の飯岡地域で海開きの可能性はあるかないかをちょっとお伺いしたいと思います。

リフォーム補助事業に関してなんですけれども、こちら、年間通して需要は満たせているという感じなんですか。それとも、結構早い段階で締め切ってしまう感じなのか。その辺をお伺いしたいと思います。

以上です。お願いします。

○委員長（片桐文夫） 永井委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） それでは初めに、167 ページ、タブレットが 168 ページになりますか、水田農業の財源の内訳でいいですか。

（「はい」の声あり）

○農水産課長（池田勝紀） 全事業で1億6,041万5,000円のところ、一般財源が1億1,395万8,000円、それから県のほうから補助が来ています。県のほうが3,555万7,000円。あと、市債として1,090万円を財源としております。

多面的機能支払交付金のほう、全事業としては8,395万円のところなんですけど、この事業としては、全額、公費で来るんですけども、県のほうからうち6,398万8,000円、一般財源として1,996万2,000円ということで財源になっております。

○委員長（片桐文夫） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 海水浴場のほうですけども、6年度の予算については、矢指のみの予算編成というふうになっております。

あと、ほかの地域というところがございますけれども、県のほうで砂浜の再生に取り組んでいるというところもあるんですけども、何せ自然が相手ということで、その辺についてはかなりの時間がかかるだろうというところもございます。例えば、今の場所より若干西のほうにずらしてできないかとかというのも今考えてはいるんですけども、例えば排水路、小さい川が流れていて、水質の問題であるとか、また地形が潮騒ホテルの下とは若干違うというところもありますので、我々とすれば、ライフセーバーとか、そういう専門の方の意見をいろいろ伺いながら、可能性については今後も、やめることなく検討はしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

○委員長（片桐文夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） それでは、リフォーム補助事業のスケジュールについて回答いたします。

まず、予算成立後、ホームページと広報で周知を行っております。あわせて、区長回覧も使ってやっております。それが4月から、4月1日号の広報などで周知するんですけど、まず申込みとして5月の中旬まで。本年度は5月の連休明けくらいなんですけど、申込期間として、まず仮申込みという形で受付がございます。その申込みを集計いたしまして、予算と比べま

して予算額を上回るようでしたら抽せんなりそういった作業を行うんですが、過去、抽せんまで至ったケースはございません。

その後、交付申請の手続きを行っていただきまして、実際に着工は、おおむね7月くらいから皆さん着工できるかなというところですよ。ですから、年度の当初に募集をしまして、途中の受付はしてございません。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 永井委員。

○委員（永井孝佳） ありがとうございます。

すみません、さっき再質疑で、建設関係にもう1点だけ質疑させていただきたかったんですけども、いいですか。すみません。

様々な工事とかがありまして、年度末に工事が増えると思うんですけども、これというのは予算を使い切っちゃわなきゃとか、そういうのが関係しているんですか。それとも、何かほかの理由があるのか、それとも年度末に工事が多いというのはただの思い込みだよというのか。その辺、もし分かることがあれば教えてください。

○委員長（片桐文夫） 永井委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 年度末に、すみません、そんなに多く工事を出してると……。一応入札等なので、だいたい期間がありますので。

（「たまたま着工がその時期になる」の声あり）

○建設課長（齊藤孝一） はい。そういうことでご理解いただきたいと思います。すみません。

○委員長（片桐文夫） 議案の審査は途中ですが、11時10分まで休憩いたします。

休憩 午前10時59分

再開 午前11時10分

○委員長（片桐文夫） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

ほかに質疑はありませんか。

向後委員。

○委員（向後悦世） 予算書の 188 ページ、説明欄 12 番、委託料のところ、永井委員からも質疑がありましたが、監視員業務委託料。飯岡海水浴場はなしということで、よくカワサキスポーツが契約して。飯岡海水浴場が開設されていたときと飯岡海水浴場が開設されなくなった差額、どのくらいなのかお示しいただければと思います。

そして、カワサキスポーツとはもうかなり長いこと契約を結んでいると思うんですが、いつから始まったのかお示しいただきたいと思います。

それと公園維持管理委託料。これは上永井の展望館の維持管理委託料なのかお尋ねします。

それと、予算書の 202 ページ、これは井田委員からも質疑があったと思いますが、私なりの観点でお尋ねしたいと思います。

橋梁長寿命化修繕事業。橋梁の修繕、どのような基準で修繕して長寿命化を図るのか。また、新設したほうがメリットがある場合もあると思いますが、長寿命化した場合には、だいたい寿命が何年くらい延びるのか。また、新設の場合には、何年寿命があるのか。その辺をお尋ねしたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 向後委員の質疑に対し答弁を求めます。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） まず、監視員の業務委託料ということで、向後委員がおっしゃったのが 188 ページということだったんですけども……

（「189 ページ」の声あり）

○商工観光課長（大八木利武） 189 ページって言ったんですか。189 ページはプールのほうの監視員の業務に。

（「プールだけ」の声あり）

○商工観光課長（大八木利武） はい、プールだけになります。

それで、委員のご質疑にありました海水浴場に関しましては、191 ページ、タブレットも同じく 191 ページになるんですけども、矢指のみということで 665 万 7,000 円計上してございます。昨年度も飯岡海水浴場は開設しませんでした。ただ、パトロールとかその辺のところ行っていましたので、200 万円程度、開設時に比べると 200 万円程度安くというか下がっている状況でございます。

それで、カワサキスポーツサービスというお話ございました。当初、私の記憶だと、平成 6 年度ぐらいに旧飯岡町で海水浴場、その頃からカワサキスポーツサービス、ライフセーバーで入っていました。ただ、今現在は、カワサキスポーツサービスはもう既に撤退をされてい

まして、そちらのほうでライフセーブ部門をやっていた方が独立をして、今、山武市のほうで業を営んでいるということで、見積り合わせをやっていますけれども、今そちらのほうに矢指をお任せしている。

(「当時、リーダー的存在で来てた人が今、事業を起こして」の声あり)

○商工観光課長(大八木利武) いや、違います。その方がライフセーブ部門を切り離して、別の方に譲ったということを聞いております。

公園維持管理のほうですけれども、こちらのほうは上永井、もちろん含んで……

(「展望館だけ」の声あり)

○商工観光課長(大八木利武) 展望館の周りと草と芝とを含んでおります。

以上です。

○委員長(片桐文夫) 建設課長。

○建設課長(齊藤孝一) 橋梁の長寿命化の件でございます。橋梁の長寿命化のほうは、計画を立てまして、5年サイクルでやってまして、5年間のうち4年間で全橋梁を調査しまして、5年目で、その橋梁の調査結果を受けて修繕計画をして直していくというような計画を立てております。

管理の手法ということで、壊れてから直す場合と、予防で直す場合があります。積算したものはあるんですけれども、今後50年間の事業費を壊れてから直した場合と、壊す前に予防的に修繕する場合と積算してみますと、壊れてから直した場合が152億円かかる。その前に直す場合は20億円で済むということが出ておりまして、縮減効果がかなり見込まれるということで計画を進めております。架け替えたときとというのはちょっと比較はしていないんですけれども、ただ、壊れてから直す場合と、壊れる前に予防的修繕をしていくということで比較はしております。

以上になります。

○委員長(片桐文夫) 向後委員。

○委員(向後悦世) ただいまの建設課長の説明で、全橋梁の診断を行うと。耐震診断を行うと。全橋梁。これ、5年で審査しなければいけないというか、新しいものや何かは、5年で審査したほうが安全・安心にはつながると思いますけれども、当面、新設して新しいものや何かは、10年やそのくらいは審査が必要ないようなものもあるのではないかなと思われませんが、その点はどんなふうに判断して全橋梁を診断しているのか、その辺についても伺いたいと思いますし、また、軽微な補修を続けていくということも大事だと思います。軽微な補修続け

ていけば 20 億円で済む。壊れてからすると 150 億円もかかると。ただ、大規模な改修すれば、また寿命が延びるわけで、そこら辺の判断というのはまた難しさがあるかと思いますが、その点についてお尋ねしたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 向後委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 一応、橋梁の長寿命化というのは、法律的に全橋梁義務づけられて、計画を立ててやりなさいと国交省のほうから指示がございますので、そちらで対応しているというところがございます。

大規模改修の判断基準なんですけれども、一応、橋梁点検、専門家のほうに業務委託していますので、その報告等で判断させていただきたいと考えております。

以上になります。

○委員長（片桐文夫） 向後委員。

○委員（向後悦世） では、業者のほうの判断に一切委ねているということでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 向後委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 一応、専門家の方に設計等を依頼しておりますので、その方の判断と、うちのほうでその方の判断を見ながらということやっていきたいと考えております。

○委員長（片桐文夫） 向後委員。

○委員（向後悦世） 分かりました。では、よく専門家、旭市のそういう専門知識に詳しい方と協議して、なるだけ少ない予算で、市民の皆さんのために安全・安心な橋梁を目指して頑張っていたきたいと思います。自分らも微力ながらそういう点チェックして、市内を歩いていきたいと思います。よろしくをお願いします。

○委員長（片桐文夫） 答弁はよろしいですか。

○委員（向後悦世） 答弁はいいです。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑はありませんか。

戸村委員。

○委員（戸村ひとみ） それではお願いします。

令和 6 年度の予算ということでの審査ですので、まず最初に、令和 6 年度予算編成に当たって、6 款の農林水産業費、こちらのほうの全体の積算のといいましょうか。そののところが聞かせていただきたいんです。

なぜかと申しますと、私は本会議でも問題視したんですけれども、産出額が6位だったところが11位に下がったというのを聞きしましたら、何かちょっとよく分からない。分母がどうのとか何とかって数のトリック的なことをおっしゃったんですけれども、私は、数字として出ることには必ず根拠があると思っているんです。だいたいこうねみたいところは感覚でいいと思うんですけれども、数字として出たら、もうそこには絶対に根拠があります。その根拠を探りたいんです。

そのときにこの令和6年度の予算書を見ましたら、農林水産業費、6款は軒並み予算が令和5年度に比べて減になってます。農業委員会費から初めて、これ10.3%減。農業振興費、こちら4.2%減、あと……。ごめんなさい。タブレットだと、いちいち移動しなければいけないから。

(発言する人あり)

○委員(戸村ひとみ) タブレットのほうが早くて、全部見比べなければいけないので、行ったり戻ったりしなければいけないから。

畜産振興費に至っては26.2%減。これは、畜産、養豚がずっと、国内では都城市1位の旭市2位というのをずっと続けてきたと思うんですけれども、それが3年で3位に下がったということで、私は養豚に関しては特に注目しているんですけれども、畜産振興費26.2%減、あと、農地費50.3%減、トータルで27.1%減です。

続きまして、この農林水産業費のほうも減、減と。18.7%減の12.9%減。漁港管理費のみ26.8%増になっているんですけれども、あとはもう全て、漁港建設費40.3%減、トータルで、こちら14.1%減になってます。なぜこんなふうに減になっているのか。

私としては、産出額の順位を落としたということを踏まえて、旭市としてのポテンシャルといいましょうか、そこを生かして予算立てをされるべきではないかと思ひまして、11位になったというそこを検証して、令和6年度の予算立てが行われたというふうに私は考えますので、なぜこんなふうに全てが減になっているのか。

今、世界を見渡しましても、戦争がいろいろなところで勃発というか起こって、日本は要するに輸入にかなり頼っているところがあるので、国民の胃袋が38%台ぐらいでしか食料提供できない、国民の胃袋を賄うことができないというような状況の中で、食料安保のほうで食料止められてしまうと、日本は戦争で攻めてこられる以前に飢え死にしてしまうだろうということがあります。そんな中で、旭市の果たすべき役割というのは非常に大きいと思うんです。千葉県自体が農業県でございまして、その千葉県を支えているのは旭市ですから、旭市

の果たさなければいけない役割というのは非常に大きいと私は思っているんです。

ですから、6款に関しての予算の減、軒並みの減というところが……。6年度の予算自体はかなり増になっているんですよ。もちろんご存じでしょうけれども。そんな中で、6款の農林水産業費が減になっているところ、かなり大幅な減になっていると私は思っているんですけれども、ここのところお願いします。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員、質疑は一括ですけれども、これだけで……

○委員（戸村ひとみ） 全部言っちゃいます。ものすごい数あるんですけれども。

○委員長（片桐文夫） お願いします。手短に、分かりやすい質疑で。

○委員（戸村ひとみ） 今の、すごい分かりやすいと思ったんですけども、駄目かしら。

では、細かいところもいきます。

では、それぞれ、今、トータルの根拠をお願いしたかったんですけども、164 ページ、タブレットのほうです。164 ページ、農業総務費、3.7%減の主な根拠。

（発言する人あり）

○委員（戸村ひとみ） タブレット 164 ページですね。

先ほどのトータルした分の減、6款の減の内容、一つ一つ細かく聞いていきたいと思います。

166 ページ、農業振興費。これも 4.2%減、これの主な根拠。

171 ページ、畜産振興費、こちら 26.2%、先ほど言いました、かなりの減になっております。こちらの減の主な理由。

それから、今度それぞれに、もう少し細かくいきたいと思います。

168 ページ、水田農業のこちら……

（発言する人あり）

○委員（戸村ひとみ） 元に戻るのではなくて、今は大きいところですよ。要するに、款から聞いて、目で今度聞きます。今度、目の内容を聞いていきます。

168 ページの水田農業、先ほど来、前者のほうからも質疑ございました。こちらの 1 億 6,000 万円あまり、この金額の内訳も前者のほうからございましたが、飼料用米への移行というんですか、そういうので予算を取ってあるというふうに聞いたんですけども、これ、前年度の評価を基に予算立てしてあると思いますので、どういうふうに推移をしていくのかというところをお願いします。これは農業産出額との兼ね合いを見てみたいので、そのほうお願いします。

それから、173 ページ、タブレット 174 ページです。耕作放棄地、前者のほうからもござい

ました。これ、課長、2ヘクタールってちゃんとおっしゃっていましたよ。私、ちゃんと2ヘクタールって書いていますもん。その後、200アールって訂正されましたけど、200アールイコール2ヘクタールでございますので。

(「200ヘクタール」の声あり)

○委員(戸村ひとみ) 本当ですか。2ヘクタールって書いてある、私。それが90アールになったということ。

耕作放棄地に関しましては、私、一般質問でも取り上げて。ただ、そこまで行き届かなかったところもあるんですけども。耕作放棄地自体がものすごく問題になっている。先ほど言いました食料安保の面から見ても、国の施策からしても、耕作放棄地を何とかして食料安保の中の一つの施策にしようよというところがあると思います。それなのに、なぜ200アール、2ヘクタールが90アール、0.9ヘクタールに目標が令和6年度落ちているのかというこのところの根拠をお願いしたいと思います。

それと、174ページ、多面的機能活動団体。これ、16団体ということで8,395万円ですか。この分布、その16団体の分布状況。市内全域を網羅されるのが理想なんだろうけれども、令和6年度ではどういった分布になるか、それを予算立てしてらっしゃるのかということをお願いします。

それから、184ページ、空き店舗ですね。3か月以上使われていないということで、希望物件を見つけた方がこの補助金の申請をするということで、3か月以上使われていないんですというのは調べることができるんですか、それとも、申請する人がこの物件を3か月以上使っていませんというふうに言えばいいことなんですか。そこをお願いいたします。3か月というのの根拠も併せてお願いいたします。

それから、185ページです。特産品開発なんですけれども、136万円。令和6年度で見込まれている件数。さっきの1件というのは令和5年度の話でしたよね。令和6年度で見込まれている件数です。

私、この特産品開発については、非常に旭市のポテンシャルを生かせるいい予算だと思っていまして、これがふるさと納税とか、あと農業振興のほうとリンクすることが非常に好ましいと思っているんです。そういう横断的な検討というものが今までなされてきたのか。令和6年度にこれが反映されているかどうか。先ほど来言ってますように、農業ということに関しては、旭市はものすごいポテンシャルを持っていますので、そちらのほうと特産品とが一番絡みやすいといいまじょうか、やりやすいところだと思うんです。旭市をどんどんPRし

てもらいたいというところもありますので、136万円というこういう金額が妥当なのかどうか、これだけしか予算が取れないのかどうかというのもちよっとあれなんですけれども、どういうふうに市内業者、農家に対して、あるいは商工関係の業者に対して、どのような働きかけを令和6年度されるつもりかというのもお願いいたします。

あと、プレミアムは前者のほうで聞かれましたので、185ページの次は188ページ、観光施設管理費。これ、1億円超えであります。これの内容を教えてください。

188ページの次は198ページです。都市計画……、違うな。198ページって何だったっけ。書き切れてない。転倒防止柵の場所と長さ、まあ内容ですね。その内容を教えてください。

それから、198ページの次が203ページです。前者のほうからございました都市計画総務事務費2,934万4,000円。令和4年、令和5年、令和6年の3か年で予算を取って、令和5年、つまり今年度でマスタープランができて、令和6年度は計画の見直しとか何かいろいろ書いてあったんですけれども、マスタープランが令和5年度にはできたということでもよろしいんですね。もう1回、令和6年度の2,934万4,000円の内訳と都市計画見直し支援業務委託料。内訳といってもこれなんだと思うんですけれども、支援業務委託料2,874万9,000円、この業務委託先と支援業務というものの内容を、前者のほうの説明であったかと思うんですけれども、私、聞き取れてもないし分かってないので、その辺をお願いいたします。

それから、ごめんなさい、203ページの前に202ページがございました。前者のほうからございました橋梁長寿命化修繕事業。72橋梁で、令和5年度に設計、令和6年度に工事なのかなど。これも聞き取れてないんですけれども、その中にまだ設計という文言もあったと思うんです。調査・設計委託料というのがございます。これを教えてください。

あと、13年前、東日本大震災のときに壊れたような橋というんですか、橋梁、不具合が生じた、あるいは壊れた橋というのがどれぐらいあって、それに対してどのような施策といたしましょうか工事が行われたかとか。そういうのも全部、今回の大規模改修の設計の中にも入っているでしょうし、能登の地震がございまして、そのときも橋が壊れて、その地域に物資が届かないとかそういうようなことも報道等ございました。そういう能登で壊れた橋のこととかもこの計画の中には、設計の中には勘案されているというか、13年前の東日本大震災、そして能登の地震で橋梁が壊れたということが今回のこの予算の中に反映されているかどうか、そのところお願いします。あと委託先ですね。お願いいたします。

211ページです。住宅リフォーム。125件で1件20万円というふうな積算と前者の質疑にお答えがありました。この250万円の1件20万円というところですか。これだと、耐震化という

ことに対しては、ちょっとこの予算では……。あっ、違うか。補助額だから……。まあ、いや。耐震化のリフォームというものもこの中には考えられているものなのか。その耐震化の分も予算……

(「別項目」の声あり)

○委員(戸村ひとみ) 別項目で。ごめんなさい、別項目であると今教えていただきました。では、これは、耐震化は全く関係のない予算ということで、その上の上のほう、ごめんなさい。に同じく……。211 ページの耐震化のほうだ。ごめんなさいませ。耐震化のほうの補助金の金額の根拠、お願いいたします。

予算要求のところ、12 月中に恐らく予算要求がされていて、1 月に能登の地震がございましたから、本来ならば、能登の地震を考慮した予算立てにもう 1 回、予算要求をされるべきだと私は思っていて、そういうことがなされたかどうかというのもお願いいたします。

で、空き家です。211 ページですね。空き家等対策推進事業。全国の空き家対策ということで様々報道がされているところなんですけれども、旭市のほうも動き出して、私たちにちょっとここで説明があったときに、だいたい 1,100 戸ぐらいではないかみたいな話があったと思うんです。1,500 戸というふうに今回……。最初から 1,500 戸でしたっけ。

(発言する人あり)

○委員(戸村ひとみ) そうそう。それが、この対策事業に取りかかっているいろいろ調べてみたら 1,500 戸。

○委員長(片桐文夫) まだ課長、質疑の途中ですから。

○委員(戸村ひとみ) すみません。この前の説明で、1,500 戸という数字が頭の中に残っているんです。そここのところのずれと、1,500 戸という数字の上での積算根拠、予算立てになっているのか。最初、1,100 戸で聞いていたものですから。それで令和 6 年度の予算が 1,500 戸に見直されたのかどうか、そここのところをお願いいたします。

あと、ここも委託していると思うんですけれども、この委託先をお願いいたします。

そんな感じです。漏れていたらまた後でします。だいたいこんな感じです。

○委員長(片桐文夫) 戸村委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長(池田勝紀) 幾つかあったので、順番に答えます。抜けていたらおっしゃってください。

一番最初、6 款の総括ということですか。総体と言いますと。

6款農林水産業費につきましては、過去、この例年、だいたい9億円から12億円の間を前後して推移して予算が盛られているところです。その予算の立て方なんですけれども、基本的には、こちらから大いに推進していこうというスタンスのものと、あとは、農業者が手を挙げて、こういった事業をやりたいという件数とか、あるいは一番大きなのは土地改良の事業があったとするとかなり大きな予算になったりとかというところがあるんですけれども、そういった要因で今回の予算が前年より減った大きいのは、土地改良事業が終わったところがあるというところで、その辺でかなり数字的には低くなっていると。

それから、畜産のほうの補助事業の要望、去年あったのがなかったりとか、あと水田農業関係でも、飼料用米の関係で県の補助事業がなくなって手が下がったとか、そういったいろんな要因もあります。それから、園芸生産のほうの県の補助金も毎年毎年要望調査をする中で、農業者が今年取り組みたい人が多い時もあれば、今年は少ないというところもあるもので、そういった中で予算というのは、そのときのあれで多少前後するという部分があります。

あと、農業産出額、11位に落ちてしまったと。私も残念だし、とてもびっくりしています。要因としては何なのかと言ったら、あくまでも統計なので、どういう拾い方。これも議会のほうでも私何度か、統計の積算の仕方というのを説明しているんですけれども、以前はもっと細かい自治体の単位で、旭市は何が幾らとかということで統計、昔は取っていたらしいんですけれども、今もう作物ごとに、県全体で幾らというところで、作物だったら、この作物は県全体で幾らだけれども、旭市は耕作面積がこれだけだねとか、畜産、養豚だったら県全体でこれだけの売上げだけれども、旭市の飼養頭数は何頭だねというところで、例えば自治体ごとのプラスアルファ、旭市はこの作物をすごい高く売っているとか養豚を高く売っているという部分が全部ならされてしまうというのは一つの要因なのかなと思っています。それ、統計のほうの手法の関係なので分からないですけれども。

食肉公社とかに確認しても、養豚なんかは出荷頭数が減っているとかということでもないので、コロナの要因と言ったら全国的な話なので、同じ話なんだろうなというところで、何でなんだろうというのもあります。

あともう一つ、花なんですけれども、以前は南房総市が1位、旭市が2位でだいたい推移していたんです。ところが、この間の同じ統計で、四街道市がいきなりトップに躍り出てきたと。県の普及員の人にも聞いたんです。これ何って言ったら、普及員も何でか分からないと言っている状況で、先ほど言ったように、数字のマジックでちょっと分からないんですけれども、その辺の要因が見通せない部分は確かにあろうかなというふうに思っています。

農業のまちということで、いろいろお手伝いする部分はどんどんお手伝いしていきたいなどは考えております。ただ、予算につきましては、毎年毎年膨らましているというわけではなく、そのときの状況状況、それから農家の要望とかを確認しながら年度年度の予算を組み立てていっているということです。

それから、もっと細かいほうですよ。農業総務費が最初でしたかね。農業総務費の 3.7% 減というところですけども、この要因は、予算書を見ると分かると思うんですけども、農業関係職員給与費というのが 1 名減ということで予算立てされていますので、その 7,650 万円というのが大きな要因なのかなと。

それから、農業振興費が 4.2% 減ということなんですけれども、水田農業のほうの話もこの後あるのでかぶってしまうんですけども、水田農業構造改革推進事業というのが 675 万 6,000 円減になっているんですけども、これは国とかの制度改正、県の制度改正とかということで、飼料用米の作付けに関して、主食用米とあとは多収品種の専用品種っていうのがあるんですけども、これがだんだん国のほうが、主食用の普通の一般品種のほうの補助率を下げているというところが大きな要因なのかなというところ。あとは、飼料用米・加工用米等流通加速化事業補助金という県の補助金が 6 年度はないということで、それが 380 万 6,000 円ということになります。

それから、畜産振興費のほうなんですけれども、これが 26.2% の減ということですけども、主な要因としましては、家畜予防対策事業のほうで要は予防接種の接種見込み件数の減ということで 719 万 7,000 円。それから、県産飼料自給体制整備事業というところで、これはだいたい毎年 1 件ぐらい要望があるんですけども、全体事業が小さかったということで、462 万 5,000 円です。それから、さわやか畜産総合展開事業というのが質疑でもあったんですけども、それが今回、市内の農業者で事業要望がなかったということで、738 万円、大きく減っているという全体的なパーセンテージになります。

次が、水田農業の関係、同じような答えになってしまうんですけども。専用品種に対する国・県の補助金が目減りしているというところから少なくなってきていると。あとは、毎年、水田農業の補助金、飼料用米の補助金に関して推計を取っているんですけども、そのときそのときの米価によって結構、農家のほうも取り組みたいと。お米が値段上がっているんだからやめたいとか、そういったのもあるので、一応、そうならないように市のほうは利用者協議会、生産者協議会という話合いの中で、大きなあれだったら、3 年契約すればちょっと高く買うということで、なるべく続けてもらうような生産者同士の話合いをやってもらった

りして続くようにはしているところです。

そういった見越してきた中で、去年、国が見込んだ以上に生産調整というか作付け転換が進んだというところで、そういった要は需給が絞られてくると、やっぱり米価が少し。コロナ前まではいかないんですけども、多少上がっている基調があると。そういうのをいろいろデータとかで農家が見ると、やっぱり主食に戻ったほうがいいかなといった考えもあるという中で、今回の取り組み面積も予算上はそんなに、去年までほど大きな伸びで見込んではいないという状況です。ただ、この事業続けていきたいので、少しは努力して、去年並みには最低でもというところで予算立てしているところです。

あと、耕作放棄地のほうですか、90アールの根拠。去年も2,000万円、200アールということで予算していたんですけども、なかなかこの事業、こちらでアナウンスしても取り組んでもらえる人が少ないというところで、一応いろいろなどころにはお声掛けして、今回、5か所ぐらい。20アールが3か所と70アールが2か所というところで予算立てはして、これは要望の中で、全体で90アールということで。全部は無理だということなので。

70アールというところもあったんですが、実際にはまだ、やるかどうか。お声がけしている地区なので。

予算で大きく盛ってもなかなか手を挙げてもらえないというところがあるので、個々の農家が耕作放棄地解消するのは難しいと。どっかの農業法人とか生産法人とか、例えばこの間、農業新聞でも載っていたんですけども、石川県かほく市のJAが自ら出資法人を立ち上げて、市の耕作放棄地をどんどん解消しているという事例がありまして、これすごいいい取り組みだなと。かほく市のJAの組合長は、農地を守るのはJAの使命だって新聞にも書いてある。そこまで思い込んでやってくれているというところで。それがいいのは、耕作放棄地の解消だけではなくて、出資法人をつかって、そこに新規就農の希望の人を2年か3年雇うんですって。それで新規就農対策にもつながっているという新聞記事の先進的な事例。そのほか、茨城県でも三つか四つぐらいのJAが合同でやっぱり出資法人をつかって、どんどんそれをJAの使命として解消しているという、そういった先進的事例はあります。ただ、旭市はなかなかそこまでの農業者の団体は活動がないので、個々の活動に頼ってしまっているところがあるんですけども、そういった大きな動きがあれば、どんどんそういう人に活用してもらえれば、うちのほうの補助金もどんどんつけられるのかなというふうに思います。

それから、多面的機能の16団体の分布ということでした。干潟地域が4団体、海上地域が3団体、飯岡地域が2団体、残りの旭地域が7団体で全部で一応16団体ということで、多い

少ないはあるんでしょうけれども、いい感じで広がってきているのかなというところです。
この制度は非常に、農地を守るにはいい制度なので、団体つくるに当たって規約つくったり
だとか結構ハードルが高いですけども、そういった部分では農水産課のほうで支援しながら、
どんどん増やしていきたいなと考えています。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） では、商工観光課のほうから順番……

○委員長（片桐文夫） 農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） すみません。さっき、農業総務費で、減の要因を給与費の1名減で、
もしかして7,650万円とかって間違ってしまったと思うんですけども、765万円の間
違い。1人分なので、そんなに給料をもらっている人はいない。すみません。

○委員長（片桐文夫） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） では、私のほうから、3点ほど質疑いただきました。まず空き
店舗の関係です。

希望物件、見つけた方の賃借の確認方法なんですけれども、こちらは申請があった時点で、
市のほうで不動産屋であったり貸主のほうに連絡して確認を取っております。

あと、3か月の根拠というところなんですけれども、特段、根拠というのはないですけれど
も、もともとの補助金が始まったときに、6か月空いていれば対象という形を取っていた
んですけども、そのときになかなか空き店舗の申請がなかったというところで、少し緩め
てあげて、あまり空き店舗が長く続いてしまうと、商店街にとってもよろしくないという
ところから、その辺を少し緩めたという経緯でございます。

あと、特産品開発のほうの136万円でございますが、特産品についてはそのうちの100万円
ということで、補助金50万円限度ということで、一応2件分を予算計上しております。

ここのところなんですけれども、令和5年度が1件、昨年度はゼロでございました。令和3
年度は3件というところで、その傾向を見ながら取りあえず2件というところで今回計上さ
せていただいたところでございます。

あと、横断的なこの検討というところなんですけれども、もともとの特産品というのは、
旭市の農水産物を生かした特産品開発というところに主眼を置いていますので、もちろんも
ともとの産物を使ってやっているというところでは、うまく機能しているかなというふう
に考えてはいます。

今年についても、1件というのはミニトマトの農家が、はじかれた規格外のトマトを利用してジャムを作って、それを開発したいというような申請でございました。農家のほうで6次産業化といいますか、そういったところで産物を無駄にしないで生かして特産物に変換していくというような取り組みを支援しているという意味では、どういった連携とはちょっと具体的に言いづらいところあるんですけども、今までの申請の傾向を見ていますと、そういった傾向が多いということなんです。あと、個人で申請している方についても、旭市の農水産物をもちろん活用していろいろな製品をつくっていききたい、研究していききたいというところで採択されている例がほとんどですので、その辺は趣旨に合致しているかなと思います。

これから先、委員のほうからありましたけれども、ふるさと納税の返礼品というところがまだちょっと。もちろん返礼品になっているものもあるんですけども、ちょっとまだそこまで行き着いてない商品もありますので、その辺につきましては、もちろん観光物産協会とかと連携しながらPRのほうをしていったりとか、あと、例えば道の駅に置いてもらうような形で市としても支援していくというような、いろいろなことを考えていければというふうに思っております。

あと、観光施設費について、6年度で1億円突破しているという話でございましたけれども、これにつきましては、先ほどもちょっと補足説明では申し上げたのですが、まず潮騒ホテルの脇にある市営プールの老朽化に伴う改修工事が約1,000万円弱の規模がございます。あとは観光遊歩道、これは令和5年度から引き続いての事業になります。今年度途中までやったんですけども、その続きということになりまして、こちらのほうが約1,300万円ほど。あと、長熊釣堀センターの管理棟にありますトイレ、浄化槽、この辺が老朽化しているというところで、利用者もまた高齢者が多いという中で安全に使用していただくというところで、その改修というところです。

ちょっと戻ります。遊歩道につきましては、5年度、老朽化していた手すりの撤去と、半分、新しいのに切り替えたんですけども、山から水が流れてきて、それがなかなか滑って階段が危ないというご指摘もありましたので、途中で受ける排水溝を整備してやりました。6年度は、手すりの続き、上半分のほうと、津波避難経路にも指定されているというところから、LEDの照明設備を4灯ほど設置したいというところで計画をしているところでございます。

そういったところで、観光施設管理費のほうの事業費が膨らんでいるという要因になっているというところでございます。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 議案の審査は途中ですが、午後1時まで休憩いたします。

休憩 午後 零時 3分

再開 午後 1時 0分

○委員長（片桐文夫） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、戸村委員の質疑に対し答弁を求めます。

○建設課長（齊藤孝一） では、最初に198ページ、交通安全の転落防止柵の関係になります。場所は鎌数になります。延長は220メートル、高さは1.1メートルの転落防止柵を予定しております。

続きまして、202ページ、橋梁長寿命化の関係になります。委託料の関係なんですけれども、74橋の点検のみになっております。令和6年度は点検のみということになっております。

あと、13年前の震災で、橋梁がどのぐらい壊れたかというようなご質疑もありました。1橋、欄干が壊れていたというところなんですけれども、その場所は、矢指ヶ浦海水浴場の西側に架かる日の出橋という橋なんですけれども、自転車道の端のほうで津波によって浮き上がり、日の出橋のほうに持ち上がってしまって、それで欄干が壊れたということになっております。把握しているというのはその1件でございました。

そういうのを含めて長寿命化対策をしているのかというような質疑だったと思うんですけれども、今回、長寿命化につきましては、あくまでも現況の橋梁の長寿命化対策であって、耐震の補強というところまではまだありません。

以上になります。

○委員長（片桐文夫） 都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） それでは、203ページ、都市計画見直し支援業務委託料、こちらのほうから回答いたします。

まず、こちらの業務の委託先なんですけど、令和4年の6月に、国際航業株式会社と契約いたしました。業務期間は令和4年度から7年度まででございます。4、5、6、7でございます。

ざっくり言いますと、業務1年目の令和4年度は、都市計画区域の指定方針、指定基準の検討や建築物の動向調査、そういったのを行っております。2年目、本年度は、昨年度からの

継続に併せまして用途地域や都市施設、全員協議会で軽く説明させていただいたことをやってまいりました。主な業務として6年度なんですけど、指定道路調査、建築基準法上の道路調査でございます。これは事業量が非常に多くて、業務のほぼ7割を占めております。市内で狭い道路の調査を全部行うまでが大変で、本年度もう既に予備調査からかかっておりまして、7年度いっぱいかかるのかなというところなんです。令和8年度からの都市計画区域の拡大を今目標に進めているところです。

区域マスタープランのお話が出ましたので、そこについて触れます。

区域マスタープランというのは、千葉県が県内の各都市計画区域に目標とかその指針を定めるもので、市が施策を行うマスタープランとはちょっと内容は違います。市のマスタープランについては、区域拡大後、令和8年度以降に作成の予定でございます。ここで言う業務というのは、その区域を拡大することを前提に県のマスタープランの原案をつくっておくという、そんなにボリュームが大きいものではございません。

それで、次は211ページよろしいでしょうか。211ページの上から耐震の関係でございます。質疑の中で、能登の地震を受けて何か考えはあるのかということだと思えます。

耐震については、昭和56年以前、旧耐震の建物について、以前から耐震改修の事業をやっておりまして、取り立てて今、能登の地震を受けて拡大とかというわけではございません。常に重要施策として位置づけております。ただ、実績としては、古い家の価値観の問題もあるのか、耐震改修まで至った事例はごく少数でございます。

予算の内訳なんですけど、まず、耐震改修補助金200万円になっております。これは、補助金100万円が2件で200万円でございます。その内訳としましては、補助金の上限が100万円で、補助率は3分の2で、設計、工事、施工監理、そこを含めた補助金になっております。

その下の耐震診断補助金8万円でございます。これは、耐震があるかないのか、そういった診断に関する補助金でございます。補助金額は4万円で、その2件で8万円になっております。

その下、住宅リフォーム補助事業。これは耐震ではなくて、一般の市民の方が主に住宅のリフォームをする費用に充てるものです。外壁の改修とか浴室、トイレ、そういったものにあてがってもらっております。

それと、下の空き家等対策事業でございます。これ、委員のほうから1,100件が1,500件とかというお話がございましたが、平成30年にやった実態調査で、1,129件の空き家が市内にあるということです。1,500件というのは、本年度、5年ぶりにやっているんですけど、まだ完

全に精査は終わっていないんですが、1,500件ほどにそれが400件近く増えた状況でございます。ということで1,500件ということを何らかの機会にちょっと申し上げたことかなと思います。それを受けて予算に反映したのかということでございますが、空き家に関しては市が直接下すものはそれほどないので、1,500件に増えたからといって、仕事は当然、手紙のやり取りなりそういうことはしますが、予算上反映できるものはそれほどないので、予算的には従前とそれほど変わりはありません。

それと、委託先の質疑がございました。211ページの12、委託料の委託先でございます。計画策定支援業務委託料は今後入札で行いますので、まだ未定でございます。

その下の電算機保守委託料。これは長期継続契約で、空き家のシステム管理を行っております。アジア航測株式会社千葉支店が長期継続契約で受託しております。

以上です。

○委員長（片桐文夫） 建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） すみません、答弁漏れがありました。申し訳ありませんでした。

橋梁長寿命化の委託先なんですけれども、公益財団法人千葉県建設技術センターというところに委託をしております。

以上になります。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員。

○委員（戸村ひとみ） すみません。いろいろ書き取っているうちに、自分でも順番が分からなくなってしまったので前後するかも分かりませんが。

まず、171ページの畜産振興費。タブレットですね。26%減の中が接種見込み減ということだったんですけれども、接種見込みが減ということは、接種する対象のもの、動物が減るという見込みなんですか。そのところお願いいたします。

これもまた1回で全部やっちゃうの。

○委員長（片桐文夫） はい。

○委員（戸村ひとみ） 訳分かんなくなっちゃうね。

168ページ、すみません、遑っちゃうね。飼料用米のこと、詳しく教えていただいて、私も実は昨日、そのところを詳しく自分なりに勉強したんです。そうしましたら、課長のご答弁の中にあつたように、主食用ともう一つの主食用にならないお米を米価によって、お米の値段によって、作り手が作りたいほうが上下すると。

（「そうじゃない」の声あり）

○委員（戸村ひとみ） そうじゃない。いや、私はそういうふう理解したんです。ただ、農業の後継者とかが少なくなるということは、恐らくもうかる農業になってないから後継者が少なくなるんだろうと思っていますので、ぜひとも旭市内の農家にはもうかることを考えていただいて、どんどん農業振興を進めていっていただきたいんです。

なので、飼料用米のほうの減になっているところというのが、国・県の補助金が減っているのも一つの要因だというふうにお伺いしたんですけれども、そのところで、市のほうから国・県の補助金とかを減らさないような申出というか、そういうことというのはできないものなのかどうか。令和6年度の予算に対してそういうことを申し出るような機会とかそういうことがないものなんですか。なかったんですか。

というのは、先ほど来言ってますように、千葉県農業を支えているのは旭市なので、そういった自負を持って県にちょっと物申していただきたいんです。県のほうに行ったらしゃる議員もいらっしゃいますし、農業のまちということでその議員にお願いするなり、市としても強く申入れをされるべきだと思うんです。政策的なところで、予算を編成するときに、そういうことというのはやられるものなのかどうかお伺いします。いや、ぜひともやっていただきたいのでこういうことを言っているんですけれども。何か言いなりみたいなのはちょっと受け入れ難い、私としては。ということで168ページ。

飛んでしまうかもしれませんが、耕作放棄地です。173ページ。課長のほうから、予算が減になっているところって、20アール掛ける3と、70アールを見込んでいるところがちょっと不確定なのでということで、全部で90アールになっているというふうにちょっと聞こえたんですけれども、20アール掛ける3ということは60アールなので、残りの30アールの分が、70アール何とかしてくれないかというような人のお答えが不確定ということだったのかなと思うんですけれども。

取り組んでもらえる人が少ない現状があるということで、市のほうから取り組んでもらえる人を発掘するというのをJAとタッグを組んでやってらっしゃるものなんですか。そのところをちょっとお伺いしたいです。

これも先ほど来言ってますけれども、県だとか国だとか、そういうところの関係なしでは農業の予算というのは絶対にとっていけないところだと思いますので、そういった意味ではJAというのがものすごく大きな役割を旭市でも持ってらっしゃると思いますので、その辺とのタッグのことをお願いいたします。

それから、出資法人をつくっているところもあるということで、この件こそJAに働きかけ

をして、出資法人をぜひつくってもらえないかみたいなことを予算を編成する時点で考えていただきたいんです。こういった例があるということ把握されて、令和6年度予算の中での検討というものはありましたか。お願いします。

耕作放棄地と次の養豚のほうにもかかるんですけども、市としては、農家が一番求めていることが何なのかというところは把握してらっしゃると思います。私が昨日、自分なりに勉強した中で、補助金等がいくら増額されても、ちょっと言葉は変ですけども、麻薬みたいなもので、一時的にがっとう気分が上がったりなんかするかも分からないけれども、継続的な効果は出ないというのを農家のほうから聞いているんです。本当は価格転嫁をどうやったらできるかということ真剣に考えてほしいというのを言われたんです。私、農業新聞とかを読んでいても、それが農家の切実な思いなんだろうなというのはしみじみ感じます。

ですから、令和6年度の農業予算の中で、価格転嫁がうまく行われるようなことを耕作放棄地に関して、後で触れます養豚のことに関してもですけども、令和6年度の予算要求の中で考えられましたか。

185 ページ、特産品のことです。例を挙げていただきました。ミニトマトでジャムを開発ということで、とてもいいことだと思います。農業のまちでミニトマトを特産品にしようという試みを持ってくださった方がいらっしゃるということもものすごくいいことだと思いますし、それに対して補助金が出るということがすごくいいことだと思います。ただやっぱり、先ほど課長のほうからもおっしゃいましたが、この特産品を作った後がどういうふうに販売できて、どんなふうにここで収益が上げられるかということまで全部、庁内横断的に。ふるさと納税もそうですし、あとは道の駅もそうですし、そういった農業に関わっている方の収益が上がる方向と特産品開発を結びつけてやっていただきたいというのが……。

すみません、今後、そういうふうな取り組みを。令和6年度予算決まりましたけれども、こういう取り組み自体は予算があるなしにかかわらず、課長はじめ課の方々、あるいは全庁的な職員の働きかけでどれだけでも、歳入とかに関しましては増額できる可能性があるわけですから、そのあたりのところ、令和6年度内でやられるおつもりがあるかどうかということをお聞かせください。

あと、188 ページです。観光施設管理費の中で主なものを挙げていただいたんですけども、報酬というのは、観光施設に従事されている方お一人分ですか。報酬だから違うな、給料ではないですもんね。ちょっとその報酬、お願いします。

それと、先ほど言ってくくださった金額を足し算してみたんですけども、1億円の半分ぐら

いにしかならない。半分にもならないか、述べていただいた中では。

あと、ごめんなさい、私が聞き漏れているのかも分かりませんが、需用費のところの……。ごめんなさい。大きいところ、もう1回。プールの改修だとか遊歩道だとか釣堀のトイレだとか、その辺聞いて足し算した中では1億円にはちょっとならなかったもので、お願いいたします。

188 ページが終わって、ごめんなさい、ちょっと前後するかもしれませんが、202 ページの橋梁です。令和5年度が設計のみで、令和6年度が点検のみというご答弁でよろしいですか。課長、すみません。点検のみということで。

○委員長（片桐文夫） 課長、答弁はちょっと待ってください。

○委員（戸村ひとみ） ちょっと待ってください。では、ついでに言います。

耐震化補強というのは入ってない、別ということだったんですけれども、なぜ別なんですか。大規模改修とかと耐震化というのは別物でやるものなんでしょうか。そこをお願いいたします。

それと、203 ページ。来年度の予算の中で指定道路調査というのがあって、これが細かい道路にまで及ぶのですごく大変な作業だということで、7年度いっぱいにかかるだろうというご答弁だったんですけれども、指定道路というのがどれぐらい網羅されているものなのか。市の所有の道路全て、市道というのが全てで、県道も全てなのかとか、そのあたりのところをお願いします。

後で聞くというか、津波避難道路なんかも入っていますか。全部。そのあたりが入っているのかどうかをお願いします。

それと、203 ページの次が 211 ページ。空き家対策なんですけれども、さっきのご答弁の中で聞き漏れたんだと思うんですけれども、解体費というのは何ですか。解体費ってありますよね。解体費教えてください。

解体・撤去工事。

211 ページの次が、やはり 211 ページの耐震化の……。前のページからですよ。210 ページの住宅・建築物耐震化なんですけれども、200 万円で、100 万円が2件予定していると。予定というか見込んでいるということで、補助率3分の2で、本会議での質疑のときも聞きましたけれども、耐震化しなければいけない。いけないというのか、耐震化するべきという建物に対する予算の割合、予算で上げている件数の割合を教えてください。

あと、先ほども言いましたけれども、予算要求のときにはまだ……。予算要求のときと同じ

金額なのかということを知りたいんですけども、能登で地震がございましたでしょう、元旦に。そうすると、結構いろいろな地方自治体で、防災対策の見直しをしているんです。次年度予算に生かそうということでの見直しをしているところが結構あります。そういった見直しというのは、予算要求のときと比べてというか、ありましたか。能登の元旦以降、あったかどうかをお願いします。

私、このところの予算が200万円というのは、本当に予算の取り方が少ないのではないかなと思ってこういう疑問をしているんですけども。

211 ページが終わって、すみません、1個漏らしていた感じがするんですけども。あった。農水産課長、すみません、土地改良が終わったというのが大きな原因、要因という……

(「それも一つの要因」の声あり)

○委員(戸村ひとみ) 一つね。

では、土地改良が終わったことでどれだけ減に令和6年度の予算が、その部分というのはどれだけ減になるのかということと、あと、統計の仕方が何かちょっと変わって、県のほうの人に聞いても、何でだろうねみたいな話があったということで。でも、それって恐らく旭市に対してだけのあれではないと思うので、千葉県に対してだけのことでもないと思いますので、恐らく全国的なことなんだろうと思うんです。統計ですから。

要するに、本当に数字でしか私たちは見ることができないので順位にこだわってしまうんですけども、6位をずっと保っていたところが11位になったとか、養豚に関しては2位が3位になったとかということとで一番聞きたかったの、ここなんです。令和6年度予算要求のときに、あるいは予算編成のチームの中での話合いのときに、そういうことというのは考えるテーブルに上がってきたのかどうかということをお教えください。単に数字を積み上げたら、これは県のほうから補助金出ないからこの額になるよねとか、補助金に対して誰も申出がなかったからこの額になるよねという積算のみなのか。土地改良が終わったからこの分が減になるよねって、そういう積算のみなのか。あるいは、2位から3位に上げよう、6位から11位に上げようという戦略的なものも予算編成チームの中でのテーブルに乗っていたのかどうかということをお願いします。

一旦、こんな感じ。すみません。

○委員長(片桐文夫) 戸村委員の質疑に対し答弁を求めます。

簡潔明瞭な答弁をお願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） いっぱいあって、整理しながらでいいでしょうか。

畜産の関係で、畜産振興費の減の要因として予防接種の費用というところで減ったと。それも一つの要因なんですけれども、予防接種は毎年、千葉県東部家畜保健衛生所の方とか、あとは実際に畜産農家のほうに要望調査をしてやっているところです。いろいろ予防接種も、法定伝染病という必ずやらなければならないものと、届出伝染病といって任意でやる部分もあります。予防接種の中には、毎年やるものもあるけれども、3年に1回でいいとか、去年はそんなに出てなかったから来年はいいでしょうということで、そのときの防疫の病気の進行状況によって多少変わってくる部分もあるのかなと。

いずれにしても、家畜保健衛生所の方と畜産農家のほうと連絡を密にしながら要望調査ということで数字を固めているという状況になります。

次が水田農業のほうでよろしかったんですかね。

旭市の水田農業の補助金なんですけれども、1億6,000万円ぐらい盛ってあります。これは市の単独補助金とあとは県のほうの補助金というところで、旭市の予算には載ってないんですけれども、転作の補助金というのは、国から直接来る部分が一番大きな部分になります。それはこっちの予算に入らないで、直接、農家に支払います。今1億6,000万円、県と合わせてですけれども、市が投資している、推進しているというところで、実際に旭市管内には、この面積でいくと、だいたい7億円とか8億円の金額が国から直接、農家のほうには来ているということになります。そういった部分で少しでも誘導できればということで、市のほうでも上乘せの予算とか取っています。

県のほうの要望、常々うちのほうもしているところです。もうちょっと何とかならない。ただ、県にしても、転作の関係の助成金につきましては、国からの配分になっておりまして、国から一定程度、千葉県に配分があって、その中で産地づくりということで、千葉県がまた千葉県全体としてどこにポイントを置いて補助するかというのは決まっている状況になります。

千葉県は昔から転作が全然できていないと。全国で転作やらないワースト3とか。という中で、飼料用米というのが制度としてできてからは、どんどん県のほうも転作ができたということで、そういった部分では県のほうも飼料用米についてはかなり力を置いてやっています。

国の制度設計も旭モデル。旭市が始めたのがモデルで、私担当のときに直接、農水省の事務官とも話し合いながら制度設計したという経緯もありますので、先進的な取り組みではあるのかなと。

次は耕作放棄地の関係でして、取り組む方がなかなか少ないというところでJAの例を申し上げさせてもらったんですけども、JAともいろいろな機会を捉えているいろいろ話し合う機会がありますので、JAもJAで経営の部分もいろいろあるんでしょうから、そういった部分ではそういう例もありますよというところで話合いはしているけれども、無理やりやらせる話ではない。JAはJAのスタンスもあるので、そういったところは話合いをしながら、どういった方向で、違う方法があるのかどうか、JAも少し力をお貸しくださいという形で話し合うことはできるのかなと。今後もそういった機会を捉えて、そういった部分で話し合っていきたいと思います。

それから、価格転嫁。それこそ食料・農業・農村基本法が半世紀ぶりに改正なるということので今の国会で審議されています。この中で大きな内容の一つとして、価格転嫁をどうするかというのを今揉んでいるところなんです。ただ、価格転嫁って非常に難しい。

例を言いますと、フランスでエガリム法という価格転嫁の法律やっているんですけども、それにしても、価格の算定の仕方が物によっては非常に難しいということで、今後、そういったのを算定して、価格転嫁の基礎数値が出てくればという話なんですけれども、今現在、旭市独自で価格の算定できませんので、そういったものが出来からですかね、話としては。なので、6年度予算ではちょっとそういうところはないです。

あと、土地改良の減も一つの要因で、たまたま土地改良の数字が大きかったということで。匝瑳市と旭市のくっついたところの樺海・豊和の基盤整備事業が3,100万円くらい、去年より落ちているのかなというところ。

それから、統計の話もありました。6位から11位に旭市がなつたと。いろいろな計算方式もありますけれども、もっと大きな要因としては、千葉県が4位から6位に落ちていると。そこら辺もかなり引っ張られた原因なのかなとは思いますが。ただ、統計の手法とか、こっちもそれを検証するまでには至ってないんですが、オール県でいろいろ算定している中で、県全体として4位から6位に下がったというのも一つの要因なのかなというところで考えています。

一応。漏れてたら言ってください。すみません。以上。

○委員長（片桐文夫） 商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） それでは、商工観光課から2点、お答え申し上げます。

初めに、185 ページ、特産品の話でございます。委員のほうから、もっと横断的に取り組みをというお話ございました。

特産品について申請されて採択された方につきましては、もちろん観光物産協会のほうをご紹介して、例えば会員になればPRとか物販イベントとか、そちらのほうでタイアップできるというようなことをご紹介したり、あとは、先ほども申しあげました道の駅への出品とか、あと、ふるさと納税の返礼品。この辺は企画政策課のほうと連携させていただいて、そこに結びつくような。要は、うちのほうも、特産品ということで、開発して、その後が大事だと思いますので、その辺に結びつけるような取り組みというのは今後大事だということで取り組んでまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひします。

あと、施設管理費でございます。最初に報酬とかという話がございました。報酬とその下の給与という欄なんですけれども、長熊釣堀センターの会計年度任用職員の人件費の関係になります。それだけです。

あとは、再度、1億円というところでご説明をということでした。昨年度の観光施設管理費と比べて2,200万円ほど増して1億円を突破しているというところになります。その主な増の要因なんですけれども、先ほど申しあげた3か所の工事もそうですけれども、あと海水浴場、海岸の砂が堆積しているのを撤去するとかというところでだいたい1,600万円ぐらいかかっています。あと、委託料のほうで主なところで、海岸のトイレの清掃です。6か所ほどあるんですけれども、これが昨年度に比べると約200万円ほど上がっている。人件費の関係だと思うんですが。あと、監視業務、プールのほうの監視業務。あと、公園維持管理ということで、先ほども申しあげました長熊の釣堀スポーツ公園とあと上永井公園の樹木や草の関係の維持管理、こちらのほうが230万円ほど、昨年度に比べると上がっている。物価高騰、人件費の高騰というところも鑑みて。その辺を足し上げますと、だいたい2,160万円、2,200万円近い線がこの辺かなというふうに考えております。

ですから、工事そのものも1,500万円ほど上がってはいるんですけれども、そのほか委託料、そういったところが結構大きいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（片桐文夫） 建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 202ページの橋梁長寿命化の委託料の関係、再度整理しました。

まず、令和5年度の委託料は、橋を修繕する設計が入っています。もう一つは、先ほども申しあげましたが、4年間で市内の橋、全橋点検すると。もう1年間で点検したものをまとめて修繕計画を策定するというような形で申しあげましたけれども、ちょうど令和5年がその修繕計画を策定する年で、その委託料が入っております。

令和6年度は、今度新たに74橋の点検から行います。

(「どういうこと」の声あり)

○建設課長(齊藤孝一) 令和5年は橋の設計入っています。

(「何の」の声あり)

○建設課長(齊藤孝一) 橋を修繕する設計ですね。修繕する設計が入っています。

(「ちょっと分からない」の声あり)

○委員長(片桐文夫) 答弁を続けてお願いします。

○建設課長(齊藤孝一) なおかつ、橋梁の修繕計画書を令和5年度にやっけていまして、令和6年度は、74橋の点検委託料のみとなっております。

あと、橋梁の長寿命化に関して、耐震のほうが入っていないというようなことでしたが、一応、26年度の道路法改正で、橋梁については5年に1度の定期点検が義務づけられていまして、そのメニューに従って今、橋梁の長寿命化のほうを行ってございまして、耐震とはまた別という考えになっています。

以上になります。

○委員長(片桐文夫) 都市整備課長。

○都市整備課長(飯島和則) それでは、まず203ページから、指定道路の関係からでよろしいでしょうか。

指定道路というのは、建築基準法に係る道路で、都市計画区域になりますと、幅員4メートル未満の道路ですと、家が建たなくなってしまいます。現状、旧3町には狭隘な道が数ございまして、それを救うために、都市計画区域になる前から使っていた道路に家が建っているんだよと証明するためにつくる図面なりを作成する作業でございまして。その数が、机上の段階で、今現場にもぼつぼつ入っているんですが、旧3町の中で延べ延長が656キロメートルほどございまして。

机上の分なので、現地調査入って、それが不要になる場合もあるし、必要な場合もあるし、いろいろなケースがあるんですが、路線数としては1万1,662本ございまして。

(発言する人あり)

○都市整備課長(飯島和則) 1万1,662本。机上で調査が必要だということで今挙げている道路ですので、実際に現場行って測ってみて、例えば4.1メートルあったとか、3.8メートルだったとか、そういうので変わってくるので、現場調査行かないと分からないんですが、今このくらいの量がございまして。これを図面に仕上げて、写真撮ったりしてという作業が。これ

は本当に人が幾らでも必要な作業でございます。それがでございます。

次の二百……

(「津波避難道路」の声あり)

○都市整備課長(飯島和則) 津波避難道路とかはもう幅員が広いので、そもそも関係ないので、入っておりません。

それと、210 ページ、耐震化、耐震改修の関係です。

割合ということだったんですが、推計でございますが、市内に旧耐震、昭和 56 年以前の木造の戸建て住宅は 4,800 件ほどあると今推計出ております。その中には空き家も、1,500 件、今空き家あるんですが、大半は空き家なのかな。1,500 件くらいはほぼこれに入るのかなというところもでございます。

それとあと、この中で建て替えであるとか、そういったものを予定している方もいらっしゃるのかもしれませんが、予算的には 2 件なので、4,840 分の 2 ということに。

(「四千八百……」の声あり)

○都市整備課長(飯島和則) 40 分の 2 でございます。

耐震改修、実際に工事に至らなくても、市としては、耐震の無料相談もやっておりますので、それも毎年広報でお知らせしていますので、まずはそういう相談から。診断をして必要であれば改修となるんですが、価値観の問題で、40 年以上前の家ですから、大金をかけてという思いがあるのかもしれませんが、まずは耐震の相談をしてみてもらうことからやってもらおうかなというのが今のところの最優先の施策でございます。

それとあと、211 ページの空き家等対策の解体・撤去工事。これは、空き家が放置されておりました、台風なんかの前に、風があつて窓が飛んだりとか、そういったのが生じる可能性が過去何件かございます。そのときに、空き家の持ち主に連絡を取ってとやられてられないので、緊急安全措置で予算確保しているものです。内訳としては、20 万円掛ける 3 で 60 万円用意している。ロープとかコンパネとか使って安全措置を図る、そういったものでございます。

耐震の予算要求と能登地震の関係なんですけど、能登地震の前に要求して、それ以降、変えておりませんので、そのままでございます。

○委員長(片桐文夫) 戸村委員、お願いします。

○委員(戸村ひとみ) すみません。たくさんなので自分自身もよく分からなくなってきたんですけれども、ちょっと順番が前後するかもしれませんが、先に、耐震化のリフォームという

か住宅のほうなんですけれども。

さっきも申しましたように、能登の地震を受けて、結構いろいろなところが防災ということでの見直しを。当然のことながら、次年度予算への反映のために見直しをしているという記事がばんばん出ているので、そんな中で、ここの2件というのがちょっと引っかかってしまって聞いたんです。市としては、きちんとこの見直しをして、実際に旧耐震のところの住宅が崩れて被害者が随分出ているという事例が直近で起こったわけですから、予算を上程する前にきちんと見直しをして、2件なんていうんじゃないかと、やられるべきだったんじゃないかなと私は思うわけです。一番大事なところですよ。市民の命と財産を守るというところは市が一番やらなければいけない。市こそがやらなければいけないところなので。そこで副市長、どうですか。ここのところの予算編成です。

先ほど言いましたように、自分のところが1回ものすごい痛い目に遭っている。自分の市が痛い目に遭っている。それに重ねて、今度、次年度の予算を編成している途中で、能登にあんな大変なことが起こった。当然のことながら、防災というところに関しての予算は、見直しというか組替えが行われるべきだったのではないかと私は思うわけです。それをしないで上程されたということに対して、私、副市長のご見解をお聞きしたいです。

(発言する人あり)

○委員（戸村ひとみ） ちょっと待って。まだほかにも。すみませんね。全部言えってことなんです。

それに関連してです。関連してというか、先ほど課長のご答弁がありましたけれども、橋梁の耐震化のほうは別ですというような話があったんです。そこまでのご答弁の中でもちよっとよく分からないところがございまして、私の理解力が欠けているんだと思うんですけれども、令和5年度に設計、令和6年度に74橋梁の点検のみ。点検してから設計ということではないんですか。どんなふうに直したらいいかなとかというのを点検して、それで設計して、実際に工事をやるという流れではないんですか。私の理解が間違っていたら、お願いします。

なおかつ、耐震補強とかというのは入っていないということなので、では何の点検を令和6年度で。どういったところの点検をするんですか。穴が開いている、壊れそう。でも、地震が来たらどうなるかというのは、別に点検はしないということなんですか。

あと一つ、さっき漏らしていました。179ページの積立金の洋上風力のほう。ごめんなさい。令和4年度から令和29年度までのトータルの額を教えてください。途中で6,000万円になって、また今度、4,000万円に下がっているとか何とか、ちょっといろいろありました。トータ

ル、令和4年度から令和29年度のトータルでお願いします。

あと、転落防止柵のことなんですけれども、198 ページ。鎌数の 220 メートル、1.1 メートルというのは、確認です。議員のほうからの、このところ市民の声がありますというのを受けての設置予算になっていますか。その確認だけお願いします。市民意見を拾い上げられた議員の方の申出によってのこの予算取りになったかどうかというのを伺います。

それと、あともう1点。副市長のほうにこれもご答弁いただきたいんですけども、令和6年度の道路予算で、先日、「東日本大震災 13 年」という読売新聞の記事の中に、「津波避難道路完成遠く」という衝撃的な記事が出たんですけども、これに対して、令和6年度って予算取っていますか。市民の声がかなり上がっていると思います。私のところにも、避難道路が完成しないということに対しての市民のおしかりの言葉だとかいろいろ届いています。そういったことで、令和6年度にはぜひともこれを進めなければいけないというふうな話が予算要求のときには必ず上がっていたと思うんです。それに対しては、令和6年度予算の中でどのようにになりましたか。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員の質疑に対し答弁を求めます。

農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） それでは、洋上風力のトータル金額なんですけど、26年間で10億円が来るということです。

○委員長（片桐文夫） 建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） まず、点検の仕方から。

（「何か時系列が私のみ込めないんですよ」の声あり）

○建設課長（齊藤孝一） すみません。橋梁を4年かけて全ての橋梁を点検します。

（「それは何年から何年」の声あり）

○建設課長（齊藤孝一） 前は……

（「5年に1度の見直し」の声あり）

○建設課長（齊藤孝一） 5年に1度の見直しです。

（「で、4年かけて点検なの」の声あり）

○建設課長（齊藤孝一） そのサイクルです。4年点検やって、1年修繕計画、4年点検やって、1年修繕計画。令和5年度は、修繕計画策定した年。修繕計画は、前年度に橋梁修繕の計画も立てますので、今年、令和6年に工事する分には、もう計画がそこに、6年で工事しますという計画がありますので。

(「それとは別なんだ、74 橋は」の声あり)

○建設課長(齊藤孝一) 74 橋は別になります。順繰りに年度で点検していきながら修繕をしていくというような形になります。すみません。

あと、点検方法なんですけれども、近接目視という形で、橋の下に潜り込みながら、目視でひび割れ等を点検していくという形になります。

以上です。

○委員長(片桐文夫) 副市長。

○副市長(飯島 茂) 私のほうに何か2点、ご質疑がありました。ページよりは質疑の順で回答させていただきたいと思います。

初めに、211 ページの関係で、211 ページの上段のほうに、住宅・建築物耐震化促進事業のうちの住宅耐震改修補助金 200 万円について、担当の説明で2件だということで回答しておりますが、戸村委員から、能登の地震、1月1日ありましたが、そういった状況の中でこれを見直して、もっと多く予算化すべきではないかといったようなご質疑でございました。

能登の大きな地震に限らず、ここ何年か前から、千葉県はスロースリップでしょうか、地震が多発化しているといったようなことで、いろいろ国のほうも注意喚起をさせていただいております。そういった上で、予算をもっと多くすべきといったようなことでありましたが、担当課というかこの予算編成については、今までの実績の中で2件見ておりますが、実際、市民の皆様から本当にご理解、心配されて、補助金の申請等あれば、これについては打切りではなくて、流用等でしっかり対応させていただきます。とにかく市としては、やはり市民の安全を守るためにPRすべきなんですけれども、ただ予算を組むのが目標ではないんです。あくまでも前段としてPRすべきが大事だと思っております、予算の2件については、増額することはありませんでした。

2件目、201 ページの関係で、先般の 3.11 を踏まえた中での新聞報道で、旭市の飯岡地域の津波避難道について、完成遠くといったような将来といいますか、そういったことで新聞報道がありました。それについて戸村委員は予算あるのかということですが、当然事業としては、201 ページ一番下段に震災復興・津波避難道路整備事業ということで、令和6年度は1,447万1,000円事業化しております。

予算化した内容につきましては、委託の関係と公有財産が100万円強、補償補填、物件補償ですかね、440万円ほどありますが、とにかく道路整備するに当たっては、地権者のご理解、ご協力いただかなければ事業展開はできない中で予算化しておりますし、引き続き、地権者

のほう、しっかりと協力をいただけるよう交渉してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

○委員長（片桐文夫） 議案の審議は途中ですが……
（発言する人あり）

○委員長（片桐文夫） 休憩取って、その後にすぐ。
途中ですが、午後2時10分まで休憩いたします。

休憩 午後 1時59分

再開 午後 2時10分

○委員長（片桐文夫） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、議案の審査を行います。

建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 橋梁の長寿命化に耐震が入っていない、なぜ入っていないかというご質疑だったと思います。

一応先ほども申し上げましたが、今回の橋梁の長寿命化に関しては、既存の道路法の改正があつて、26年に道路法の改正があつて、5年に一遍、点検が義務づけられておまして、それに伴い長寿命化計画を立ててやっていることでありまして、今回の耐震とはまた別物になってしまっています。一般質問にもありましたけれども、県のほうでも、新川に架かる橋、干潟大橋ですね、昨年度に耐震化の設計が終えたばかりで、旭内ではまだ1橋になっておりますので、今回の橋の長寿命化に関しては、耐震とはまた別の事業だということでご理解いただきたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 答弁は大丈夫ですね。

戸村委員。

○委員（戸村ひとみ） この件につきましては、私、副市長に聞いたつもりだったんです。住宅耐震化の100万円ずつ2件の200万円の予算を見直さなかったのかということ……

○委員長（片桐文夫） 答弁しましたね。

○委員（戸村ひとみ） 違うんです。そのときにこの耐震化、橋梁の耐震化のこともそれに併せて聞いたつもりだったんです。何でこれが耐震化で補強工事というものの項目が入れられな

かったのかというのを聞いたつもりだったんですけども、別物ですってもう何回も言われているから、別物だというのは分かったんです。ただ、先ほどの課長の説明では、目視で穴開いてないか、ひび割れしてないかという、その点検のみで、5年に1回やれっていう法律があるから、そのあいで4年点検・設計して1年工事してというそれを繰り返して、令和6年度では74橋梁の点検のみを行うと。

では、ここで穴が開いている、ひびが入っているというそれを直すだけではなくて、元旦に起こった地震のことを検証して、我が町にも当てはまらないか、橋が落ちて物資とかが届かないようなことがあるんじゃないかとかということなぜ考えられなかったか。耐震化のほうの予算というのも、なぜ橋梁のほうの耐震化の予算というのをとられなかったかということ副市長に聞いたかったんです。また同じことを課長ご答弁くださいましたけれども、それでは、耐震化別ですって、橋梁耐震化は別ですって言われたんですしたら、別で、令和6年度になぜ予算取りをしなかったのかをお伺いします。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員の質疑に対し答弁を求めます。

暫時休憩します。

休憩 午後 2時15分

再開 午後 2時17分

○委員長（片桐文夫） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、議案の審査を行います。

副市長。

○副市長（飯島 茂） 現在、市では、新川等に架かる、結構橋長が長い橋幾つかありまして、それが全て安全だということではありませんが、性能、何かレベルがあるようですけども、性能さを満たしてない橋梁というのがただいま見た資料では8橋梁ありますが、本当にそれすぐ対応しなくては……。またこれ言えば、いやそれもすべきでしょうということではありますが、多額な修繕といいますか、補強といいますか、工事費がかかる中で、本当にすぐ緊急性あるということではない中で、しっかり補強工事等をして長寿命化を図る。そのように現在、市のほうでは考えているところです。非常に厳しいですけども、ですから、すぐ緊急性、すぐやらなくてはならないというレベルの耐震性を持ってないという判断では

ないと。

(「それ調べた」の声あり)

○副市長(飯島 茂) はい。性能さを満たしていないというようなレベルだそうでございます。すみません。

○委員長(片桐文夫) 戸村委員。

○委員(戸村ひとみ) つまり、耐震化診断をして、橋梁全て、8橋がちょっと怪しいけれども、今すぐにやらなくてもいいというふうな診断結果が出ているということでの答弁でよろしいですかね。

もう1点。津波避難道路のことで予算が取ってあるかって聞きましたら、令和6年度取ってあるかって聞きましたら、一千何百万円計上されているのを教えてくださいました。その中に、この記事になっている……。これ必ず読んでらっしゃいますよね。副市長、この記事。飯岡海水浴場から内陸に向かう道路、用地買収が完了せず、完成のめどが立っていない。飯岡中学までのところに抜ける道路なんですけれども、完成のめどが立っていないということで、この道路の予算がこの一千何百万円の中に入っているのでしょうか。

○委員長(片桐文夫) 戸村委員の質疑に対し答弁を求めます。
暫時休憩します。

休憩 午後 2時20分

再開 午後 2時20分

○委員長(片桐文夫) 休憩前に引き続き会議を開きます。
副市長。

○副市長(飯島 茂) お答えしたいと思いますが、まず議会事務局にも確認したいんですが、議案質疑とは議案の内容についての質疑を不鮮明な部分をやる。どうも戸村委員の発言は、新聞であったり、先ほどの関係もそうですが、一般質問的な内容に入り込んでいるといったように私考えますので、後でしっかり検証してくれませんか。よろしくお願いします。

(発言する人あり)

○副市長(飯島 茂) 新聞まで。議案の質疑だって、根拠とか不明な点であってと私思うんですけれども。

(「道路のことを聞きたいんです」の声あり)

○副市長(飯島 茂) それ言ったら、関連関連で、何でもありきになりませんか。

○委員長(片桐文夫) 副市長、答弁をお願いします。

○副市長(飯島 茂) はい。

先ほど申し上げましたように、予算のほうは二百何ページにありますし、あと歳出予算のほうについては、今年度の補正予算、第8号になりますが、繰越明許費、工事費のほうですね、しっかり入っておりますので、全工事費入っておりますので、ご理解を賜りたい。

あともう1点ありましたっけ。これだけでよかったんですけどっけ。

(「耐震診断の結果の件」の声あり)

○副市長(飯島 茂) すみません。

ですから耐震診断、橋梁に限らず、他の公共施設、例えば箱物でもそうですけれども、やりますと、相当大きな多額な予算を必要とします。ですから、要は構造物の建築年、前もちょっと申し上げましたけれども、昭和56年に耐震基準、建築基準法の耐震基準が変わっておりますので、その以前のものは今の耐震基準を満たしていないという前提の中ででございます。耐震基準をやった判断ではございませんのでよろしくをお願いします。

(「ちょっと分からないからもう1回言ってください」の声あり)

○副市長(飯島 茂) 耐震調査を行いますと、相当多額な予算を必要とします。ですから、例えばこういった橋梁または公共施設、箱物ですね、そういったものについても、全て耐震診断を行っているものではございません。前提として、昭和56年に建築基準法が改正をされて、従来であれば、震度5強の地震があっても、例えば建物等に大きな損傷を受けないという基準でありましたが、変わって、震度6の地震を受けても建物に大きな損傷を受けないといったように耐震基準が変わりましたので、昭和56年以前の構築物、建設物かどうかの判断の中で、先ほど8橋梁といたしましたかね、それについては耐震診断は行っておりませんが、今の基準は満たしていないというようなことで回答させてもらったところでございます。

○委員長(片桐文夫) 戸村委員。

○委員(戸村ひとみ) 一般質問の域ではないかということなんですけれども、全然そんなことない。私、質疑してますので。

これに関しましては、道路名がちょっと分からなかったもので、この記事のことを出ただけです。工事が遅れている道路名が分からなかったもので、この記事を出したのみです。

あと、今の副市長のご答弁、昭和56年以前の8橋梁については基準を満たしていないと思う

が、耐震診断をすると莫大な予算がかかるのでやりませんということで、なのでこの橋梁に関しては、74 橋梁を目視で、穴開いてる、ひびが割れてる、そこを直す計画のみというご回答ということで理解してよろしいでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 戸村委員の質疑に対し答弁を求めます。

副市長。

○副市長（飯島 茂） 先ほど来、建設課長回答しておりますように、5年に1度は法定のルール、法定点検ということで検査を行います。当然結果として、非常に危険というか危ない、そのような状況があれば、さらに詳しい耐震の検査といいますか診断を行った上で、当然工事に入って行く。橋梁なんてものは、どこの川でもそうですが、落ちるようなことがあれば、人が危険でもありますし、当然やりますので、それはご理解賜りたいと思います。

戸村委員、やはり先ほどの発言で、今度は津波避難道路の関係で道路名が分からなかったというご質疑で、申し訳ありませんけれども、旭市では従来から、矢指地域と飯岡地域に津波避難道を整備しておりますと何度も何度も説明してきていることなので。

（発言する人あり）

○副市長（飯島 茂） ですから、旭市には2地域しかない中で、飯岡地域って言ったらご理解賜らないと。それを道路名が分からなかったから質疑というのはどうも私は……

（発言する人あり）

○副市長（飯島 茂） 質疑していいですけども、ちょっと寂しいなと感じました。

以上です。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第1号の質疑を終わります。

続いて、議案第6号について補足説明がありましたらお願いします。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） それでは、議案第6号、令和6年度旭市水道事業会計予算の議決について補足説明を申し上げます。

令和6年度旭市公営企業会計予算書の1ページ、タブレットの4ページをお願いいたします。また、別の資料としまして、今日配付させていただいております議案第6号上下水道課という、こちらの資料のほうもご用意をいただければと思います。

それでは、第2条、業務の予定量、（4）主要な建設改良事業の配水管布設替工事、事業費

2億6,048万円のうち、主要事業である基幹管路耐震化事業以外の主な事業について説明いたします。

旭市水道事業ビジョンに基づき、病院や避難所などへ給水する重要給水管の耐震化を図る重要給水管路更新事業及び、4か所ある配水場の自然流下区域を拡大し、旭配水場のポンプ圧送区域縮小を図る配水区域適正化事業の2事業4工事を予定しております。

それでは、資料の位置図の1ページのほうをお願いいたします。

まず、重要給水管路更新事業になります。

①イ・ロ地区配水管布設替工事は、旭駅前東側へ抜ける道路と大正道路との交差点を起点とし、海上地区へ向かい、主要地方道銚子旭線を経由し、国道126号までの区間1,700メートルを、旭中央病院などへの重要給水管として位置づけ、耐震化と増径を図るため、口径150ミリメートルの铸铁管を口径200ミリメートル耐震型铸铁管への布設替工事を30メートル計画しております。

資料2ページ、タブレットも2ページになります。

②としまして、二地区配水管布設替工事は、旧市役所前通りの新川東側の交差点を起点とし、旧市役所本庁前までの区間1,900メートルを、避難所となる中学校などへの重要給水管として位置づけ、耐震化と増径を図るため、口径100ミリメートルの铸铁管を口径150ミリメートル耐震型配水用ポリエチレン管への布設替工事を300メートル計画しております。

3ページをお願いします。次は配水区域適正化事業になります。

③としまして、東足洗地区配水管布設替工事は、飯岡地域拡大のため、泉源沼の東側の県道飯岡停車場線との交差点を起点とし、西側へ向かい、川島歯科交差点までの区間1,200メートルと、泉源沼から南側集落へ下りていく道路の区間400メートル、合わせて1,600メートルを配水区域変更区間として位置づけ、増径を計画し、令和4年度に引き続き、飯岡停車場線から西へ向かう区間を、口径75ミリメートル塩化ビニル管から口径150ミリメートル耐震型配水用ポリエチレン管への布設替えを220メートル計画しております。

続きまして、4ページをお願いいたします。

④としまして、後草地区配水管布設替工事は、海上地域拡大のため、飯岡駅南側の主要地方道銚子旭線のコンビニエンスストアがある交差点を起点とし、西側へ向かい、国道126号までの区間1,010メートルを配水区域変更区間として位置づけ、増径を計画し、令和4年度に引き続き、口径100ミリメートル铸铁管から口径150ミリメートル耐震型配水用ポリエチレン管への布設替工事を160メートル計画しております。

予算書にお戻りいただきまして、5ページ、タブレットの9ページをお願いいたします。こちら、収益的収入及び支出になります。

下の支出の表をご覧ください。1款水道事業費用、1項営業費用、2目配水及び給水費に新たな補助制度を創設し、1,000万円を計上しております。

これまでは、専用住宅を建築する際に、敷地に接する道路に配水管がなく、給水を受けるために配水管を延長する場合、給水希望者から負担金を頂き、市が工事を発注する費用を計上しておりましたが、市の設計、入札に時間がかかることに対して改善を希望する意見が多かったため、着工までの時間が短縮できる新たな補助制度を創設したものです。

補助制度の詳細につきましては、報告事項のほうで説明させていただきます。

次に、予算書の6ページ、タブレットの10ページをお願いいたします。資本的収入及び支出になります。

下の支出の表をご覧ください。1款資本的支出、1項建設改良費、1目拡張工事費は、新たな補助制度を創設したことにより、市が施工していた配水管延長工事分が減となっております。

以上で議案第6号、上下水道課所管の補足説明を終わります。

○委員長（片桐文夫） 担当課の説明は終わりました。

議案第6号について、質疑がありましたらお願いいたします。

井田委員。

○委員（井田 孝） 1点だけ。

今日お配りいただいた図面の1枚目なのですが、イ・ロ地区の布設替えですが、令和6年度分は赤い線だと思うんですが、何で6年度は30メートルという工事になるのか。これだけ短いと、かえって効率が悪いのではないかと思うんです。その理由をお聞かせいただきたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対し答弁を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） こちらにつきましては、排水でのボックスカルバートとか、そういった埋設物がございます、それをよけながらの工事となりますので、今回、距離30メートルと短い工事になってございます。

○委員長（片桐文夫） 井田委員。

○委員（井田 孝） では、令和7年度以降をちょっとお聞きしたいんですが、真つすぐ行って、

八銚線横切って細いところ行くような絵になっているんですが、これは何でこう真っすぐ。このままいくと、八銚線をカーブで行くのが普通だと思うんですが、なぜ横切って細いほうの道路に行くのかを教えてくださいたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対し答弁を求めます。

暫時休憩します。

休憩 午後 2時36分

再開 午後 2時36分

○委員長（片桐文夫） 休憩前に引き続き会議を開きます。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 県道のほうの復旧工事等の費用がかなりかかりますので、その費用を抑えるために、県道を避けて市道のほうの配水管の拡張、更新の工事を先に進めるということで計画しております。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第6号の質疑を終わります。

続いて、議案第7号について補足説明がありましたらお願いいたします。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 議案第7号、令和6年度旭市公共下水道事業会計予算の議決につきましては、本会議における説明以外はございませんので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（片桐文夫） それでは、議案第7号について質疑がありましたらお願いいたします。

永井委員。

○委員（永井孝佳） では、3点ほど質疑させていただきます。

まず、予算書の22ページ、タブレットで言うと28ページの収入、営業外収益の他会計負担金は総務省の指針で算出するとお伺いしたんですけれども、3番の他会計補助金のほうはどういった算出方法で出しているのかをお伺いします。

あと、議案質疑のときに出ていたんですけれども、下水道事業全体計画の素案というのは、

ホームページで探せなかったので、どこで確認できるか教えてください。

あと3点目が、下水道に大型店舗も接続できるのかどうか。その辺ちょっと教えてください。
お願いします。

○委員長（片桐文夫） 永井委員の質疑に対し答弁を求めます。

暫時休憩します。

休憩 午後 2時38分

再開 午後 2時38分

○委員長（片桐文夫） 休憩前に引き続き会議を開きます。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） まず1点目の補助金ですが、一般会計からの事業費補助として、施設の資本費に当たる減価償却費と支払利息相当分を他会計補助金として一般会計のほうから繰り入れていただいております。

それから、全体計画の見直し結果の素案でございますが、ホームページのほうで意見を伺うために公表しております。3月1日で終わっておりますので、現在見れない状況になってございます。

それから、下水道のほうにつきましては、供用開始区域であれば、大型店舗でも接続は可能でございます。

○委員長（片桐文夫） 永井委員。

○委員（永井孝佳） 他会計補助金について、減価償却とか、詳細が分からなかったもので、また後で教えてください。

あとは、素案のほう、後でいただくことってできますか。一度確認させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○委員長（片桐文夫） 永井委員の質疑に対し答弁を求めます。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 全体計画のほうでございますが、パブリックコメントのために素案のほうを掲載させていただいております。今、パブリックコメント終わりましたので、今後、下水道の運営協議会のほうに諮らせていただいて、そこで意見をいただいた後に計画のほう

が策定されます。最終的に計画の策定されたものはまた公開させていただくようになりますので、よろしくお祈いします。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第7号の質疑を終わります。

続いて、議案第8号について補足説明がありましたらお祈いいたします。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 議案第8号、令和6年度旭市農業集落排水事業会計予算の議決につきましては、本会議における説明以外ございませんので、ご審議のほどよろしくお祈いいたします。

○委員長（片桐文夫） それでは、議案第8号について、質疑がありましたらお祈いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第8号の質疑を終わります。

続いて、議案第9号について補足説明がありましたらお祈いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（池田勝紀） 議案第9号については、本会議の説明に加えての説明はございませんので、よろしくお祈いします。

○委員長（片桐文夫） それでは、議案第9号について質疑がありましたらお祈いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第22号について補足説明がありましたらお祈いいたします。

商工観光課長。

○商工観光課長（大八木利武） 議案第22号につきましては、本会議で補足説明申し上げたとおりでございます、加えての説明はございません。よろしくお祈いいたします。

○委員長（片桐文夫） 議案第22号について質疑がありましたらお祈いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第22号の質疑を終わります。

続いて、議案第23号について補足説明がありましたらお祈いいたします。

都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） 議案第23号、旭市空家等の適切な管理に関する条例の一部を改

正する条例の制定については、本会議での補足説明に加えての説明はございませんので、ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○委員長（片桐文夫） それでは、議案第 23 号について質疑がありましたらお願ひいたします。
（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第 23 号の質疑を終わります。

続いて、議案第 24 号について補足説明がありましたらお願ひいたします。

都市整備課長。

○都市整備課長（飯島和則） 議案第 24 号、旭市立公園条例の一部を改正する条例の制定についてにつきましては、本会議での補足説明に加えての説明はありませんので、ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○委員長（片桐文夫） それでは、議案第 24 号について質疑がありましたらお願ひいたします。
（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第 24 号の質疑を終わります。

続いて、議案第 25 号について補足説明がありましたらお願ひいたします。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） 議案第 25 号、旭市公営企業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定につきましては、本会議における説明以外ございませんので、ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○委員長（片桐文夫） それでは、議案第 25 号について質疑がありましたらお願ひいたします。
（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第 25 号の質疑を終わります。

続いて、議案第 29 号について補足説明がありましたらお願ひいたします。

建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 議案第 29 号、市道路線の認定及び変更につきましては、本会議の補足説明で説明したとおりでございますので、特に補足する説明はございませんので、ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○委員長（片桐文夫） それでは、議案第 29 号について質疑がありましたらお願ひいたします。
井田委員。

○委員（井田 孝） 路線認定なんですが、A-3236 号、A-3237 号、図面を見ると、中央病院の先の分譲地の中の道路という認識でよろしいでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 宅地開発により……

（発言する人あり）

○建設課長（齊藤孝一） 場所は中央病院の先の道路です。

○委員長（片桐文夫） 井田委員。

○委員（井田 孝） 宅地開発により、位置指定道路だったのを市道認定するということでしょうか。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 宅地開発により帰属された道路になります。市に帰属された道路になります。

○委員長（片桐文夫） 井田委員。

○委員（井田 孝） こういう宅地分譲の開発行為の中で、市に委託できる道路条件というのが、通常、位置指定で残ってしまうと思うんですけども、その場合、住んでいる方々の管理が大変になるので、最初から市に委託される道路の条件のように造れば、みんな委託してもらえるのか。そういう何か要件があれば教えてもらいたいと思います。

○委員長（片桐文夫） 井田委員の質疑に対し答弁を求めます。

建設課長。

○建設課長（齊藤孝一） 道路の認定要件ですが、通り抜けができる道路で、幅員が4メートル以上となっております。

○委員長（片桐文夫） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（片桐文夫） 特にないようですので、議案第29号の質疑を終わります。

以上で、付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（片桐文夫） これより、討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第1号、令和6年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（片桐文夫） 賛成多数。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

議案第6号、令和6年度旭市水道事業会計予算の議決について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第6号は原案のとおり可決されました。

議案第7号、令和6年度旭市公共下水道事業会計予算の議決について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

議案第8号、令和6年度旭市農業集落排水事業会計予算の議決について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第8号は原案のとおり可決されました。

議案第9号、令和5年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

議案第22号、旭市企業誘致及び雇用の促進に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第22号は原案のとおり可決されました。

議案第 23 号、旭市空家等の適切な管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第 23 号は原案のとおり可決されました。

議案第 24 号、旭市立公園条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第 24 号は原案のとおり可決されました。

議案第 25 号、旭市公営企業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第 25 号は原案のとおり可決されました。

議案第 29 号、市道路線の認定及び変更について、賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○委員長（片桐文夫） 全員賛成。

よって、議案第 29 号は原案のとおり可決されました。

以上で、本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長（片桐文夫） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

○委員長（片桐文夫） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告をしてください。

上下水道課長。

○上下水道課長（多田一徳） それでは、上下水道課から3点報告させていただきます。

まず、今日配付させていただいております旭市水道事業配水管布設費用の補助についての資料のほうをお願いいたします。こちらの資料になります。

それではまず、旭市水道事業配水管布設費用の補助についてご報告申し上げます。

資料1ページをお願いいたします。タブレットのほうも1ページとなります。

初めに、現行制度について説明させていただきます。

給水を希望する土地に接する道路に配水管がなく、給水を受けるために配水管を延長する場合、これまでは旭市水道事業配水管布設費用の負担に関する規程により、延長する配水管布設工事について市が設計、入札を行い、延長が10メートルを超える部分について、2分の1を市が負担する形で給水希望者を助成しておりました。

下の例でございますが、配水管50ミリメートルを100メートル布設する場合、市の設計が550万円となり、そこへ事務費10%を掛け入札を行いまして、落札率を仮に95%としますと、概算工事費が570万円になりますが、10メートルを超える部分の2分の1を市が負担しますので、市の負担が45メートル分の260万円となりまして、申請者の負担が10メートルプラス45メートル分で310万円となっております。

市の設計、入札に時間がかかることや、市の入札価格が民間工事価格よりも割高になることなどから、年々、本制度の利用者が減少しておりました。こうしたことから、費用負担の方法を見直し、下段の新制度でございますが、仮称としまして旭市水道事業配水管布設費用補助金交付規程として、給水希望者が発注する配水管布設工事に対し、配水管の材料費相当額と諸経費分を市が負担することとしております。

下の例といたしまして、同じく配水管50ミリメートルを100メートル布設するものとして、概算工事費は市の設計ではなく、民間の業者の見積りになりますが、仮の費用としまして市設計の70%を工事費といたしますと、380万円となります。そのうち、材料費相当額を市の設計単価により50万円と見積りしますと、この50万円に経費率200%、これは市の設計平均経費率になりますが、経費率を掛けた100万円が市補助金となりまして、申請者負担金は280万円となります。この試算では、申請者の負担が30万円ほど少なくなることとなります。

次のページをお願いいたします。

2ページになりますが、新旧制度の比較をした表になります。

補助の対象は、専用住宅で変更はございませんが、現行規程では、10メートルを超える部分が補助の対象でしたが、新制度では、10メートル以内も補助対象といたしております。布設工事費は市が設計、発注していたものを、給水希望者が工事業者へ直接発注することになります。これによりまして、下の欄の工事開始までの手続き期間でございますが、設計、入札がなくなることにより、3か月から4か月かかっていたものが1か月程度まで工事期間が縮小され、工事開始ができるようになると思われまます。

また、その下の欄になりますが、市の計画等により、将来的な給水需要見込みによりまして、より大きい口径の布設をお願いする場合がございますが、現行規程では、増径分費用も給水希望者が負担となっておりますが、新制度では市が負担することに変更しております。

市の設計、入札に時間がかかることや、市の入札価格は民間工事費よりも割高になることなどから、現行規程の利用者が減少しておりましたが、新制度によってこれらが解消され、希望者の負担軽減が図れるものと考えております。

なお、新規規程の施行につきましては、令和6年4月1日に公示し、周知期間を1か月取り、令和6年の5月1日から施行する予定であります。

以上で、旭市水道事業配水管布設費用の補助に関する報告を終わります。

続きまして、資料のほう3ページになります。タブレットのほうも3ページとなります。旭市公共下水道事業全体計画の見直し（案）についてでございます。

初めに、旭市の公共下水道事業につきましては、令和5年度に事業に着手し、平成12年3月より、90ヘクタールで供用を開始しました。以降、毎年整備を続け、平成27年度に全体計画区域1,010ヘクタールのうち、事業認可を受けた202ヘクタールの整備完了後は、人口減少等の社会情勢の変化を踏まえて、新規の面整備を休止しておりました。

このような状況の中、現行の旭市公共下水道事業全体計画の計画目標年次が令和6年度までとなっていることから、目標年次の延伸を含め、計画の見直しを行っております。

見直しに当たっては、上位計画である旭市污水適正化処理構想において、現在の整備済み区域以外の污水処理方法を合併処理浄化槽による個別処理での対応としております。

3ページの表は、既存の計画と見直し計画の比較になります。

まず、計画目標年次を令和6年から令和31年へ、計画面積を1,010ヘクタールから230ヘクタールへ、計画人口を2万2,200人から4,939人へ、計画汚水量は日最大計画汚水量としまして1万6,500立方メートルから3,614立方メートルへとそれぞれ減少することになります。

続きまして、次の資料4ページをお願いいたします。計画図になります。

青い線で囲まれている区域が現在の1,010ヘクタールの全体計画区域でございます。その内側に赤色で塗られているところが大小3か所ございますが、3か所の合計面積が今回見直しを行います230ヘクタールの区域になります。

地図のほう、見つらくて申し訳ございませんが、タブレットの資料を拡大して見ていただければ幸いです。

大きい赤のほうの区域ですが、こちらに黄色の線で囲われている部分がございますが、こちらが現在の共用区域202ヘクタールでございます。そこへ、既に区域外流入として接続済みの、図の右側の少し下になります。赤い色のちょっと違うところがございますが、そちらは生涯活躍のまち、それから中ほどの旭中央ポンプ場の下の色の違うところが市役所の新庁舎、少し左側に行きまして、旭中央污水幹線上にあります、ちょっと出っ張りがありますけれども、こちらが第一学校給食センター、その周辺になります。そちらの区域を今回の見直しの中で追加しております。

続きまして、次の資料5ページ、最後のページをお願いいたします。旭市浄化センターの平面図になります。

ちょっと向きが縦向きになっていて申し訳ございません。平面図のほうの灰色の部分が既存の施設でございます。処理能力につきましては、既存の施設で足りるため、青っぽい色の部分につきましては増設を計画していた施設でございますが、計画の見直しによりまして、増設の計画は廃止となります。

以上で、旭市公共下水道事業全体計画の見直し（案）に関する報告を終わります。

続きまして、3点目でございますが、水道料金・下水道使用料納入通知書の支払い障害について報告をさせていただきます。

令和6年2月15日に、旭市上下水道お客様センターに、コンビニエンスストアで水道料金の支払いができない旨の問合せが複数件ありました。急遽、納入通知書を検証したところ、電算システムの印刷誤りにより、納入通知書の有効期限である1年後の日付を、本来は令和7年2月28日とすべきところを、うるう年しか生じない2月29日という存在しない日付に設定してしまい、これが原因となって、一部のコンビニエンスストア等でバーコードの読み取りができず、支払いができない状況であることが判明いたしました。

対象は、旭地域の一部、海上地域、干潟地域に2月13日に発送した計3,320枚の納入通知書でございます。

直ちに対応を協議し、修正した納入通知書を全件再送付することを決定し、周知のため、翌16日に市ホームページ及びLINEで情報を発信するとともに、市内コンビニエンスストアへ職員が直接訪問し、事情を説明、謝罪し、来店者への周知を依頼したところでございます。

その後、対象者全員に障害発生をお知らせするはがきを17日に、修正した納入通知を20日に発送いたしました。

ご迷惑をおかけした皆様には深くおわびを申し上げるとともに、再発防止に努めてまいります。

以上で、水道料金・下水道使用料納入通知書の支払い障害に関する報告を終わります。

以上でございます。

○委員長（片桐文夫） 担当課の報告は終わりました。

所管事項の報告を終わります。

以上をもちまして本委員会を閉会いたします。大変ご苦労さまでした。

閉会 午後 3時 6分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会建設経済常任委員会委員長 片 桐 文 夫